

ミューズN0. 25 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行:2010年10月

編集:山辺昌彦、山根和代、安斎育郎

翻訳:池田えり子、瀧 由里子、竹田敦子、谷川佳子、増田妃早子、森岡 純子

イラスト:戸崎恵理子

事務局所在:東京大空襲・戦災資料センター内 山辺昌彦気付

住所:東京都江東区北砂1-5-4

Tel: 03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326

平和のための博物館・市民ネットワーク 第10回全国交流会のご案内

第10回平和のための博物館・市民ネットの交流会を、
2010年12月4日(土)～5日(日)に甲府で開催します。

1日目は、昨年から引き続いて3つのテーマについて、
2つの特別報告を中心にします。

2日目は、例年のように応募していただいた方の報告・
討論をおこないます。ぜひご参加ください。

○1日目の詳細予定

・司会と問題提起は安田和也さんです。

・特別報告(予定)

1. ビースあいち
2. 山梨平和ミュージアム

○討論の3つのテーマ

1. 若い世代に伝える～体験の継承のとりくみ
2. 博物館の輪をひろげる～市民の利用、教員・平和活動との連繋など
3. 博物館の内容の充実をはかる～展示、資料収集・研究活動など

「平和のための博物館・市民ネットワーク」の会計・事業報告もします。
来年度以降の事務局体制についても討議し決定します。

○交流会日時

2010年12月4日(土)14時00分～18時00分

(終了後・懇親会)

5日(日) 9時00分～12時30分

○交流会会場 山梨県立男女共同参画センター

住所 〒400-0862 甲府市朝気1-2-2

電話 055-235-4171 FAX 055-235-1077

山梨平和ミュージアムの向かいです。

○宿泊は「ホテルクラウンパレス甲府」を用意していただきました。朝食付き1泊シングル、懇親会費こみで、1万2000円です。宿泊をご希望される方は11月27日までに山梨平和ミュージアムの浅川さんまでお申し込みください。懇親会のみ参加費は4000円です。

○宿泊ホテル・懇親会会場

「ホテルクラウンパレス甲府」

住所 〒400-0862 山梨県甲府市朝気1-2-1

電話 055-233-0777

山梨平和ミュージアムの向かいです。

○報告される方は、報告題を添えて、11月13日までに、事務局にお申込下さい。参加される方は11月27日までに、事務局にお知らせ下さい。配布する報告レジメや会報・チラシなどの資料は当日30部ほどご持参ください。

○会員の方は交流会参加費は無料です。

○交流会の前後に、山梨平和ミュージアムの見学が可能です。是非あわせて、ご参加ください。

○特別報告要旨

山梨平和ミュージアム理事長 浅川保

「「平和の港」3周年にあたって」

「伝えたい戦争の記録・記憶を」というたくさんの思いが結集し、民営の山梨平和ミュージアム―石橋湛山記念館―(平和の港)が、山梨県甲府市に開館して、3年余が過ぎた。入館者も5,400人を越え、この6月には、作家・井出孫六氏を迎えて3周年記念行事を盛況裡に行った。「平和の港」の3年余をふり返り、地域平和ミュージアムの意義、今後の課題について、以下の4点を中心に報告したい。

- 1 展示の概要と企画展
- 2 市民参加型の運営と毎月の企画行事
- 3 他の平和博物館との交流
- 4 若い世代への継承



Erico

平和のための博物館国際ネットワーク理事会の報告(2010年5月ハーグにて)

コーディネーター: ピーター・ヴァン・デン・

デュンゲン (Dr. Peter van den Dungen)

平和のための博物館国際ネットワーク(the International Network of Museums for Peace: INMP) の理事

会が5月21-23日にオランダのハーグで開催されました。会合には11人の理事(アメリカ、アジア、ヨーロッパ)と事務局長が参加し、INMP事務局の隣の会議室で開かれました。会議の参加者は初めて事務局を訪問し、2月から事務局長(非常勤)として正式に働き始めたニケ・リスコールジェットさんに会う機会がありました。

団体や個人が国際ネットワークに加入するよう呼びかける計画が承認され、現在正式な加入が始まっています。呼び掛け文は二種類あり(デジタル形式と印刷した文)、ひとつは平和のための博物館の存在を知らせるためのもので、もうひとつは活動資金調達の際使う文です。

会議では毎年‘Musems for Peace Review’のような名前の年報を出版し、様々な記事や小論を載せることが合意されました。その趣意書を書いて、出版が可能と考えられる出版社に送ることにしました。その間安斎育郎教授と山根和代さんが長崎元市長の伊藤一長氏に捧げる本の編集をする予定です。平和教育や平和の歴史、博物館に関する専門誌で、平和のための博物館の特集をする可能性についても検討されました。

INMPの会議(3月30日から4月1日まで)についてゲルニカ平和博物館館長のイラツェ・モモイショさんがバルセロナ市に問い合わせをされ、報告がありました。理事会が開催された後、バルセロナ市は会議の財政的援助をキャンセルせざるを得なくなったことに注目すべきです。その代わり参加者が限られ規模が小さいワークショップが同じ時期に、バルセロナ市のいくつかの援助を得て開催されるようになりそうです。将来INMPの会議を主催する組織者のために、実務的財政的諸問題に関して指針が作成されるでしょう。

INMPが出す声明に関しては、政治的で論議となるような声明文は出すべきではないと決定されました。しかし他方では立命館大学国際平和ミュージアムがINMPと協力をして「平和のための博物館アジア太平洋ネットワーク」を創設するためにイニシアティブを発揮することに対しては、歓迎されました。

その他の問題として事務局長の雇用方針、財政、平和に関する商品、理事と事務局長とのコミュニケーションの改善(例えばスカイプを使用)について討議されました。一年に二回デジタル形式で通信が発行され、その締め切りを4月と10月にすることにしました。

理事のメンバーは各博物館の活動に関する情報を交換し、ジュネーブの赤十字赤新月博物館の館長のロジャー・マヨウ氏の報告では改装の計画について知りました。

INMPの近くにある平和宮の訪問をした際、入口に今後訪問者センターができることも知りました。そこは平和博物館ではありませんが、ハーグを訪れる多くの観光客にとって平和宮における活動に関する重要な情報センターとなるでしょう。2013年平和宮創設百周年記念の際、移動展示物(平和宮図書館の文書館における歴史的ポスター)の制作と展示についてINMPと平和宮が協力する計画について、図書館長のJeroen Vervliet氏と話し合われました。その他イ・ジュン博物館を訪問し、また国際法廷、その他の機関、大使館の見学などの充実した訪問をして会議を終えました。

ピースおおさかの新しいとりくみ

専門職員 常本 一

「大阪府の出資法人・施設は図書館を除いて全て不要」2008年度、この言葉とともに始まった橋下府政のもとで、大阪府が半額出資している(残りの半額は大阪市)、ピースおおさかは存続の危機に直面した。現在、閉館処分は免れているものの、予算、職員数は2007年度から半減。特別展、イベントの数

も減り、このままでは来館者の減少がさらなる予算減を招き、悪循環に陥ることになる。そこで今、低予算でも人の心をつかむような工夫を行い、来館者増に努めている。例えば寄贈品。無料で頂戴できるものであるから、これを最大限に活用しようと、特展室の3分の1のスペースを収蔵品常設展示コーナーとした。しかもただ並べて展示するだけでなく、例えば遺品の主の生前の顔写真をお願いして入手し、観る者の心に深く入り込むようにした。昨年だけでそのような小さな展示が3度新聞に取り上げられ、反響を呼んだ。また最近、HP内にブログを立ち上げた。“平和を語り合うコーナー”のようなものは他の自治体立平和博物館のHPにもあるが、当館のブログは職員のツイッターに近い。日常の何気ないできごと。つまり平和学でいう「小さな平和」がテーマで、平和の発信者たるもの、自らの平静が必要とのコンセプトによるものである。アクセス数も増加傾向。ぜひ、のぞいていただきたい。

アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam)

wam運営委員長 池田恵理子

2010年7月3日よりwamでは第8回特別展「女性国際戦犯法廷から10年」をスタートさせました。2000年の「法廷」開催から10年、wamの開館から5年が経ちました。この間、「慰安婦」問題にとって、日本の戦争責任・戦後責任問題にとって、どのような前進や変化があったのかを考えていこうという狙いのパネル展です。5年前のオープン時に開催した「女性国際戦犯法廷のすべて」展のパネルも活用しながら、アジア各国と被害女性たちの状況、NHK番組改竄事件をはじめとするメディアの問題、世界各地の紛争下での女性への性暴力など、最新情報をまとめました。また2000年の「法廷」に結集した女性団体で実行委員会を立ち上げて、12月には大規模な10周年記念イベントを開く予定です。

2009年11月から中国山西省・武郷の八路軍紀念館で、wamと中国での性暴力被害者の支援グループが作成したパネルによる「日本軍性暴力パネル展」が始まっています。これは中国の事情に詳しい専門家や報道関係者から「あの中国で、よくぞ実現できた」と言われる画期的な企画となり、今年3月、日本の視察ツアーが訪れると中国メディアで大きく報道されました。これまでの来館者は9万人にのぼるといいます。中国の近代史研究家や博物館関係者からは、アジア全域の性暴力被害をとりあげた177枚のパネルが高く評価されました。そして中国の若い世代の記者や芸員、学生たちが、自国の戦争被害者の問題に向き合ってきたことを内省し、「自分に何ができるのか」を問い始めていることに希望を感じています。9月には2回目の視察ツアーを計画中です。

2008年から始まった各地の市議会での「慰安婦」問題解決を求める意見書の取り組みが、このところ更に広がりを見せてきました。新政権の元で、この問題の解決を推し進めようという連帯活動も活発化しています。と同時に、右派による「慰安婦」支援活動への嫌がらせや妨害が各地で頻発していますが、それをものともせず、全国各地でwamのパネルの巡回展が開かれてきました。この夏にも各地で展示会が行われます。お近くで開催の折には、是非お立ち寄りください。

平和資料館・草の家:高知

事務局員 中内愛

去年の11月、反戦詩人・槇村浩のことを訪ねて韓国から来られた戸田郁子さんとの出会いをきっかけに、20

10年2月から6月にかけて「間島パルチザンの歌を読む」と題して連続5回の文化講座を開きました。研究者の猪野睦さん、草の家研究員の藤原義一さんが講演、詩人の横田和久さん、梶原純さん、松岡美奈子さん、芝村和天さんが榎村が幼少期に書いた童謡や、詩「間島パルチザンの歌」「ダッタン海峡」「明日はメーデー」などを朗読、舞踏家の中山直一さんが詩に合わせて即興の舞踏を披露しました。全体の参加者はのべ130人でした。

現在、草の家では毎年夏の恒例行事「ピースウェイブ」で10余の行事を行っています。高知大空襲から34年目の1979年7月4日に「第1回高知空襲展」を開催し、1983年から「平和七夕まつり」、以後「平和美術展」「平和映画祭」「反核平和コンサート」など文化行事が加わり、それら県内の各団体による平和を創る行事を集合させた「ピースウェイブ(平和の波)」が1994年に発足しました。

2010年6月27日、「第27回平和七夕まつり」で開会宣言がされ、7月30日までの約1ヶ月間、高知市内京町・新京橋商店街のアーケードを、平和への願いが込められた折り鶴約100万羽と添えられたメッセージが華やかに彩りました。今年は県内の小・中学校34校と、各施設と団体15余の参加がありました。

7月2日から8日にかけては、今年32回目を迎える「戦争と平和を考える資料展」(高知空襲展)が高知市内の自由民権記念館で開催されました。(展示内容については草の家ブログで紹介しています)来場者は6日間で約550人でした。

「第1回高知空襲展」の時、6日間で9000人の来場者がありました。年々空襲展に足を運ぶ人の数は減少していますが、草の家前館長の西森茂夫さんは、1998年に発行した手書きの「ピースウェイブ通信」でこう語っています。「…私は空襲展の名称を変え発想の転換をはかりたい…新しい名称は“平和の道具展”である」。日本の加害事実に向き合い、抵抗の痕跡に光をあて、戦争が残した(残してくれた)資料や遺品を、負の遺物ではなく共生の未来への道しるべ(道具)として、私たちが展示をする側もただ展示を続けていくだけに留まらず、長いスパンで考えて未来の平和を創造しながら取り組んでいくことが大きな必要課題であると改めて感じました。

岡まさはる記念長崎平和資料館

理事長 高實康稔

本年上半期の状況と主な活動について報告します。本館の設立母体である「長崎在日朝鮮人の人権を守る会」をも対象とした取材が多くなっています。韓国から「ハンギョレ」(1月、記事:2月3日)、「国民日報」(1月、記事:3月3日)、KBS(6月、放映:8月予定)の取材があり、国内からは「図書新聞」(4月、記事:7月10日)がありました。昨年の取材で記事掲載が本年8月号となった「世界」と「婦人之友」もあります。報道機関や言論雑誌ではなく、フリーのジャーナリストや研究者の取材も増加傾向にあります。

・1月16日:機関紙「西坂だより」56号発送。
・2月21日:ソウルの大学生と立命館大学の学生が合同で80名来館し、理事長が「韓国強制併合100周年―被爆地ナガサキから考える」と題して講話。
・2月23日:小説「軍艦島」の翻訳出版(作品社)を記念して、作者の韓水山さんと監訳者の川村湊さんの対話集を長崎純心大学と共催。端島(軍艦島)に焦点を当てながら過去の克服と現在を考える濃密な対話が市民に深い感銘を与えるとともに、大きく報道された。
・3月13日:映画「岡正治の足跡」(久保俊一監督)の「初公開&監督トークイベント」を開催。上映に続いて、岡正治氏の生涯に思いを寄せるトークショウが監督を中

心に4人のパネラーによって展開された。(なお、この映画の上映希望者を募集中です。)

・4月11日:「西坂だより」57号発送。

・4月18日:独日平和フォーラム代表アイヒホルン(Eichhorn)教授の講演会「ドイツの市民と日本市民の交流の意義」を開催。独ソ戦で父を失った幼少期から語られ、独日の平和運動の懸け橋となった小田実氏の功績を称え、良心的兵役拒否の青年を派遣する意義を強調された。なお、同氏の来訪は次の良心的兵役拒否ドイツ青年ユリアン・ザンダー(Julian Sander)さんの受入れに関する協議を行うためでもあった。

・5月5日:韓国の「平和市民連帯」と「陝川平和の家」からの要請を受けて、韓国のヒロシマと言われる陝川(ハプチョン)の「原爆被害者福祉会館」で、理事長が「原爆の記憶と平和資料館の役割」と題して講演。被爆者および被爆二世の方々との懇談を通して、被爆二世問題の認識を共有するための交流の必要性を痛感した。

・5月29日:「人権社会確立第30回全九州研究集会」の宗教分科会から「岡正治先生の実践と思想」について報告を要請され、理事長が出向いて報告。主に朝鮮人被爆者の優先的援護と強制連行犠牲者の遺骨返還に取り組まれた思想と実践について語り、理解と協力を求めた。

・6月19日:良心的兵役拒否のドイツ青年アレクサンダー・ヴァイス(Alexander Weiss)さんの最終講演「長崎で経験したこと―ドイツと日本の違い」を開催。1年近くの勤務期間に経験した面白かったことや驚いたことを交え、特にドイツと日本の歴史教育と歴史認識の違いについて語り、示唆に富む講演は多くの参加者を得て大変好評であった。

・6月29日:「韓国100年平和市民ネットワーク」の一行20名が「『韓国併合』100年市民ネットワーク」との共同行動として来館され、長崎の被爆者および被爆二世との「交流・意見交換会」を開催。強制連行され、三菱造船所で被爆した金漢洙(キム・ハンス)さん(91歳)も参加され、被爆の現場で証言された。一行は端島の対岸にある「海難者無縁仏之碑」も訪ね、黙祷を捧げた。

Tel & Fax :095-820-5600

<http://www.d3.dion.ne.jp/~okakinen>

全国各地のニュース

十和田市称徳館:青森

特別展「戦争で失われた2つの命「伝説の騎手前田長吉展」「サダコと折り鶴ポスター展」が2010年7月17日～8月22日の会期で開かれました。史上最強牝馬クリフジに騎乗しダービーで最年少騎手として優勝しながら、1944年10月に召集され、1946年2月25日にシベリアで病死した前田長吉さんと、2歳で被爆し、10年後に白血病で亡くなった佐々木禎子さんの一生を通して、原爆・戦争の被害と平和の大切さを伝えるものです。

Tel:0176-26-2100 Fax:0176-26-2110

<http://komakkoland.jp/>

太平洋戦史館:岩手

厚労省の遺骨情報収集事業(インドネシア)を戦史館が受注しました。これまで、西部ニューギニア方面の未帰還兵捜索活動は全て民間まかせでしたが、今年度ようやく国家事業として2432万円の予算が組まれ、この事業の委託先として戦史館が選定されました。計画的な政府派遣遺骨収集に結び付けることを目的にしたこの事業は、現地で情報を収集・調査し、その成果を厚労省に報告することが主な任務です。

これまで戦史館が蓄積してきた現地の人々とのネット

ワークを活用し、派遣団員と共に調査を進めます。参加を希望する方は、戦史館へお問い合わせください。2010年6月～2011年3月までの期間に、5回の調査派遣を予定。

インドネシア共和国と日本国政府との遺骨遺骨収集に関する合意書の締結が遅れているため、6月末に予定されていた遺骨収集応急派遣が延期され、7月末に中止と発表されました。この影響で、戦史館が行う未送還情報収集事業の日程は流動的で、大幅な日程変更もありえます。詳しくは戦史館だよりをご覧ください。

Tel: 0197-52-3000

仙台市戦災復興記念館:宮城

企画展「戦災復興展」が2010年7月8～11日の会期により開催されました。これは毎年仙台空襲のあった7月10日前後に開催しているものです。今年は仙台空襲や復興に関する写真や遺品、仙台空襲犠牲者氏名板、墨絵などが展示されました。宮城学院、仙台市博物館、仙台市歴史民俗資料館、仙台文学館、せんだいメディアテーク、市民センターなどの仙台市内の施設による展示ブースも設けられました。

Tel:022-263-6931

<http://www.city.sendai.jp/aoba/sensai/>

仙台市歴史民俗資料館:宮城

企画展「戦争と庶民の暮らし」が2010年7月17日～9月5日の会期で開かれました。仙台地方を中心に戦争と庶民のかかわりについて考えるものです。具体的には、武運長久祈願、弾丸除け祈願などにみられる庶民の祈りのさまざまな形や、絵図・写真にみる軍都仙台、雑誌でみる太平洋戦争、愛国婦人会、国防婦人会、帝国在郷軍人会などの資料を紹介しています。

関連して 紙しばい「青い目の人形ものがたり」が 2010年7月23日に演じられました。講座「仙台の戦争遺跡」が2010年7月30日に開催されました。解説と歴史探訪「榴ヶ岡周辺の戦争遺跡を歩く」が2010年8月13・14・15日にひらかれました。

Tel:022-295-3956 Fax:022-257-6401

<http://www.city.sendai.jp/kyouiku/rekimin/>

花岡平和記念館:秋田・大館市

花岡平和記念館が2010年4月17日、秋田県大館市花岡町に開館しました。NPO法人・花岡平和記念会が中国人強制連行の象徴的な事件である花岡事件を風化させないで、後世に語り継ぐために設立しものです。問い合わせ先:NPO花岡平和記念会

〒017-0885秋田県大館市豊町2番37号

Tel:0186-42-6539 Fax:0186-43-1302

埼玉県平和資料館:東松山市

2009年度テーマ展Ⅳ「戦時中の手紙に見る家族の姿」が2010年2月27日～5月9日の会期で開かれました。1931年の満州事変から日中戦争そして太平洋戦争と日本は長い戦争の時代を迎えます。その間、満州への移民、出征、疎開など戦争により、いやおうなく多くの家族が離れ離れになりました。通信手段が発達していなかった当時、遠くの家族と連絡を取り合う数少ない手段が手紙でした。展示では、残された手紙から切り離された家族の姿と肉親への想いを取り上げていました。展示構成は、家族を想う、戦中戦後の郵便事情、満蒙開拓青少年義勇軍として、満州派遣からサイパンへ、戦争で失った2人の息子のために、出征するということ、家族と離れて一学童集団疎開、でした。図録と展示されている手紙の積読を刊行しています。

2010年度テーマ展Ⅰ「空襲と疎開」が2010年7月17日～9月5日の会期で開かれています。2010年は、戦後

65年の節目に当たります。先の大戦の末期、幾多の空襲などによって首都圏や地方都市には甚大な被害がもたらされました。空襲の激化とともに、学童をはじめとした疎開がおこなわれました。埼玉は、空襲の被害を受ける側でも、空襲を逃れてきた人びとを受け入れる側でもありました。今回の展示は、戦時中の県内で大きな被害を出した空襲と空襲を避けるための学童疎開のようすを取り上げ、市民生活や家族の絆に大きな影響を及ぼした空襲と疎開の実態をさまざまな資料から取り上げ、人びとの平和な日常を破壊した戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えるものです。日本軍の重慶爆撃を伝える「同盟写真ニュース」を展示していましたが、それに重慶市民が被害を受けたことの説明を付け加えています。図録を刊行しています。

Tel:0493-35-4111 Fax:0493-35-4112

<http://homepage3.nifty.com/saitamapeacemuseum/>

熊谷図書館・郷土資料展示室:埼玉

「戦後65周年ー熊谷空襲とその時代展」が美術展示室で2010年7月24日～8月29日の会期により開かれました。1945年8月14日の夜11時ごろ、アメリカ軍のB29爆撃機が焼夷弾で熊谷を空襲しました。これにより、市街地だけで234人の方が亡くなり、街の3分の2が焼失するなど大きな被害を受けました。館では「もう二度と戦争を起こしてはならない」という思いから、戦後40年から節目毎に「熊谷空襲」に関する企画展を開催してきています。そして今年は戦後65周年にあたり、戦争体験者の方も高齢になり、当時の状況を伝えていく機会が少なくなってきたおり、戦争を知らない世代が多くなり、戦争の持つ意味、恐ろしさ、怖さを実感できなくなっていますので、戦争が市民の生活にどのような状況をもたらしたのか、どのような影響をもたらしたのかを実感し、そして今の私たちの平和な生活が持つ意味を改めて考えてもらうために、企画展が開催されました。

展示構成は、銃後の守りと防空演習、戦時中の生活と衣服の変化、出征・市民と軍隊、戦争と子ども、熊谷空襲、空襲後のかたづけの様子、戦災復興の区画整理事業、戦後の復興生活の様子、軍隊の道具、熊谷陸軍飛行学校、軍需線・東武熊谷線、青い目の人形、戦災者慰霊の女神などで、来館者の折鶴で平和を作ろうのコーナーと空襲関連ビデオの鑑賞席もありました。図録を作成しています。

関連して、「郷土史講座ー熊谷空襲を語る」が開催され、熊谷空襲の体験者が、後世に伝えるため、当時の状況や戦争に対する思いを語りました。第1回は藤間豊子さんが2010年8月7日に、第2回は日向瑛さんが8月21日に、いずれも3階美術展示室で語りました。

Tel:048-525-4551

<http://www.kumagayalib.jp>

埼玉県立近代美術館:

「戦時下の子ども暮らしー渡辺武夫の絵暦から」が2010年1月30日～4月18日の会期で開かれました。埼玉ゆかりの画家・渡辺武夫(1916ー2003)は、油彩画の制作と並行して、雑誌や教科書の挿絵を手掛けていました。今回の展示では、昨年度寄贈された戦前・戦中期の子ども向け絵暦原画23点をまとめて紹介していました。スキー・スケートや花見など季節が感じられるものから、軍隊など時代が反映されたものまで、水彩で瑞々しく描かれた原画が展示されました。

Tel:048-824-0111 Fax:048-824-0119

<http://www.momas.jp>

国立歴史民俗博物館:千葉・佐倉市

総合展示第6展示室ー現代の「戦争と平和」・「戦後の生活革命」が2010年3月16日にオープンしました。現

在の日本と世界にさまざまな影響を与え続けているのが、1930年代から1970年代という時代です。人びとはどのようにその激動の時代を生きてきたのでしょうか。この時代の生活と文化、そしてそれを取り巻く社会と世界の動きについて、「戦争と平和」「戦後の生活革命」という2つの大きなテーマのもと、当時の生活用品や出版物のほか、映画・CM・ニュースなどの映像資料、復元模型やジオラマもふんだんに盛り込んで紹介しています。

真正面から戦争と平和の問題を取り上げています。総てを取り上げているわけではありませんが、以下に具体的に挙げるような積極的な展示をしています。まず、日本の軍隊が天皇の軍隊であったことを、掛け軸、銃の菊の紋章、軍旗、記念碑などを通して明確にしています。また、帝国としての日本を強調し、植民地などの支配と、創氏改名・協和会・徴用・徴兵などの植民地住民の動員、3.1独立運動や5.4運動からの植民地などの抵抗を重視しています。さらに南京事件などの日本軍の加害を明確に示すとともに、日本人の反戦・厭戦や、満州・中国本土における中国人、フィリピン人の抗日闘争も取り上げています。戦後も、新憲法・両性の平等・農村運動などの民主化、占領政策の転換によるレッドパージ・再軍備、それに反対する平和運動、その後の、ビキニ事件と原水爆禁止運動、沖縄・立川・内灘などの米軍基地反対闘争、1968年前後の文化革命、公害反対運動、解放後の在日朝鮮人社会も取り上げています。20世紀の民間人を巻き込む戦争については、原爆・沖縄戦を展示していますが、解説においてゲルニカ爆撃、日本軍の重慶爆撃、日本の都市空襲にふれています。

オープンから1年間、2011年4月3日まで、隣接する展示室において、日本とアメリカ合衆国との間の「人びとの移動」をテーマにした特集展示を開催しています。近代以降、日本と諸外国との間で人の交流が進み、多くの人びとが移民として海外に渡りました。そうした人の移動は、国民国家の形成、境界の形成、偏見と差別、戦争が民衆生活におよぼした影響などの、近現代社会のさまざまな局面を浮き彫りにします。日本からの移民は、北米・中南米・南洋・満州など、さまざまな地域に渡って行きました。なかでもこの展示では、米国への移民に焦点を当て、移住と定着の軌跡をたどるとともに、日米戦下の強制収容と両国間の「交換船」の運航にも着目し、戦争をはさんだ時代を、移動する人びとの眼から描き出しています。加えて、占領期に日本で特派員として活動した人びとも焦点を当て、彼らの眼に日本やアジアがどのように映っていたのかも探っています。日本と米国それぞれの社会に、「他者」として存在した人びとの眼を通して、20世紀という時代を見つめ直しています。構成は1. 動き出す人びと 2. 日米戦と移民―排日運動・強制収容・送還― 3. 占領期日本の外国人特派員 4. 強制収容後の日本人移民・日系人とアメリカ社会 です。

関連してシンポジウム「アメリカ移民の過去・現在・未来」が講堂で2010年3月20日に開かれました。

Tel:043-486-0123

<http://www.rekihaku.ac.jp/>

東京大空襲・戦災資料センター：江東区

2010年第1回特別展「忘れてたまるか東京大空襲」―おのざわさんいちは空襲画展が2階会議室で2010年2月20日～4月11日の会期により開催されました。おのざわさんは戦争末期には防衛召集をうけ空襲後の処理などに当たり、小石川にあった家も5月の山の手大空襲で焼かれました。戦後は風俗画家・漫画家として活躍し、2000年に82歳で亡くなりました。1970年ごろから空襲の死体処理で見た、子どもと母親の被害を中心に、東京大空襲の絵を描き始め、「忘れてたまるか東京大空襲」と題した空襲画の個展も開催しています。今回の特別展では、奥様の小野沢とし子さんがお持ちの空襲画のほと

んど、軍隊での体験を戦後に描いた絵、空襲の傷跡が残る後楽園付近や東京の下町を描いた絵など、45点の絵を展示していました。また、川端画学校、軍隊、軍需工場、自宅の焼け跡、空襲画の個展などでの、おのざわさんの写真やポスター、漫画家たちの寄書なども展示していました。小野沢とし子さんら取材した、解説映像「おのざわさんいちの足跡」を会場で上映していました。

関連して、開会式が2010年2月20日に特別展会場で開催され、朝日新聞記者で『東京下町』の著者の小泉信一さんが話したあと、小野沢とし子さんと対談しました。小野沢とし子さんは山の手大空襲での体験も話しました。記念講演は2010年3月21日に特別展会場で開催され、府中市美術館学芸員の武居利史さんが、美術史の学会ではほとんど取り上げてこられなかった、空襲を描いた絵の歴史を紹介するとともに、おのざわさんには、グロスのドイツ表現主義の影響が、柳瀬正夢らの風刺漫画家と同様に、強いことを話しました。

戦争災害研究室の新しい共同研究「東京大空襲と関東大震災の救援活動に関する比較災害史的研究」が、科学研究費補助金(基盤研究(C)2010～2012年度、代表者・青木哲夫主任研究員)の交付を受けて、2010年4月からはじまりました。「震災と空襲」の違いや共通する側面を比較して、それぞれの非常事態に市民がどのように対応したのかを研究するものです。とくに、江戸東京博物館・豊島区立郷土資料館・すみだ郷土文化資料館の共同研究の成果として、それぞれの館で展示された、空襲で亡くなった人の避難経路をかき込んだ「東京空襲被災地図」を、下町だけでなく都区内全体について完成させることをめざしています。

戦争災害研究室はNHKアーカイブスの学術利用に向けたトライアル研究に「放送における「空襲」認識の形成と変容に関する歴史学的研究」のテーマで応募し、採択されました。研究メンバーは戦争災害研究室研究員の大岡聡(代表)・植野真澄・鬼嶋淳・山辺昌彦・山本唯人のみなさんです。研究期間は2010年9月からの1年間で、川口にあるNHKアーカイブスの研究閲覧室でNHKの番組放送データベースや、番組の映像・台本・原稿などを閲覧し、「空襲」関係番組のリスト化をして、数量的変化や時期区分をあきらかにするとともに、主なドキュメンタリーやニュース番組の内容分析をおこなう計画です。研究期間後に研究成果をまとめて、『政経研究』などに発表する予定です。

戦争災害研究室の第24回研究会は2010年1月29日に開催され、神戸市外国語大学准教授の長志珠絵さんが「占領期における〈空襲〉をめぐる政治―を問うこと―」を報告しました。

財団法人・政治経済研究所の学術研究誌『政経研究』第94号が2010年6月1日に発行され、青木哲夫さんの「アジア太平洋戦争最末期のアメリカ海軍艦上機東北空襲―1945年8月10日の山形県庄内・最上空襲を事例に―」などが掲載されています。

「東京大空襲・戦災資料センター開館8周年 東京大空襲を語り継ぐつどい」がカメラホールで2010年3月6日に開かれました。俳優の日出ともゑさんが家族の空襲被害を語ったあと、花森安治作『戦場』を朗読し、鎌田十六さんの空襲体験証言映像「孤児たちの『お母さん』 3月10日、夫・子・母を失って」が上映されました。

「東京大空襲・戦災資料センター2010年夏の親子企画 みて、きいて、つたえよう―東京大空襲」が2010年7月～8月の土曜日に、東京大空襲・戦災資料センター2階会議室で開催されました。第1回は7月24日に中村昭三さんの紙芝居「炎の町の白い花」(原作・演出:さねとうあきら)、いとうちあきさんのトランペット演奏、船渡和代さんの空襲体験の話が、第2回は7月31日に猫座の一人音楽劇「猫は生きている」が、第3回は8月7日に北原久

仁香さんの朗読「字のないはがき」(原作: 向田邦子)、江角恵子さんの空襲体験の話が、第4回は8月14日に 八代緑さんの講演「食と戦争―学校給食を中心に」、橋本代志子さんの空襲体験の話が、それぞれありました。また、今年も絵手紙を書いたり、折り紙で羽ばたく鶴や猫を鶴を折ることも取り入れていました。

Tel:03-5857-5631 Fax:03-5683-3326
<http://www.tokyo-sensai.net/>

第五福竜丸展示館: 東京

第五福竜丸展示館では、昨年秋から今春にかけてイラストレーター黒田征太郎さんのフクリュマルとヒロシマ・ナガサキの作品120点の作品展「核なき地球をめざして」を開催、この展覧会は去る8月3日から15日まで長崎市ブリックホールでもおこなわれました。8月初めにビキニ環礁が世界遺産(文化遺産)に登録されました。第二次世界大戦後の核開発・実験の始まりとしてのビキニは、いまも人が住むことを拒む地です。人類が作り出した文化と対極にある「負の遺産」として、多くの人々に知っていただこうと、緊急企画「ビキニ環礁・世界遺産〜人類を拒む南の楽園」(仮称)を10月10日より開催します。

板橋区立郷土資料館: 東京

企画展「戦後65年―板橋の戦争と銃後」が2010年7月17日～9月26日の会期で開かれています。郷土資料館では戦後50年、60年と10年毎の節目で平和関係資料展を開催してきました。2010年の今回は、新規の寄贈資料を中心に戦前・戦中・戦後の板橋に関する社会風俗・歴史資料を展示しています。戦前戦中世代がじょじょに高齢化する中、展示会を通して、歴史的資料の収蔵を増やし、後世に伝承していくことを考えています。戦時中の空襲被害写真を撮影した石川光陽の板橋関係写真や、戦時中の物資不足の折りに金属に代わって代用された陶磁器なども公開しています。展示にあわせて、空襲・学童疎開に関する板橋区制作のビデオを公開しています。パンフレット型の図録を刊行しています。
Tel:03-5998-0081 Fax:03-5998-0083
<http://www.city.itabashi.tokyo.jp/kyoudo/>

葛飾区郷土と天文の博物館: 東京

博物館ボランティア葛飾探検団が2010年3月7日に「東京大空襲と葛飾―特別公開・柴又山本亭防空壕跡の見学」を開催しました。山本亭にある防空壕跡を案内し、葛飾における空襲の被害や金町で作られていた戦闘機などについて話しました。
Tel: 03-3838-1101 Fax:03-5680-0849
<http://www.city.katsushika.lg.jp/museum/index.html>

すみだ郷土文化資料館: 東京

戦後65周年記念企画展「2人の空襲画家・狩野光男と堀切正二郎―体験を描く『心』」が2010年7月31日～9月23日の会期で開かれました。すみだ郷土文化資料館には、2003年以後に収集した、東京空襲体験者が記憶をもとに描いた空襲画が約300枚収蔵されています。一夜のうちに家族全員をなくすなど、凄絶な体験を強いられた空襲体験画の作者たちは、作品を通じて何を私たちに伝えようとしているのでしょうか。空襲で家族を亡くし、戦後も厳しい生活を強いられた狩野光男、堀切正二郎という空襲画家がいます。2人の作品は、現在それぞれ100枚以上に及び、「言葉では伝えきれない」という作者の記憶が、絵の多様な表現の中に刻み込まれています。本展示会では、2人の作品を一堂に集め、2人の絵の表現の特徴を考え、空襲画に込められた体験者のメッセージと、その意味について紹介しています。

関連して、狩野光男さんと堀切正二郎さんを講師に、企画展記念講演会「空襲画家が語る東京空襲」が2010年8月15日に5階で開かれました。また、空襲体験画作者の脇三夫さんと恒川貞雄さんが絵を前にしてその実体験を語る「ギャラリートーク」と、新日本フィルハーモニー交響楽団員の吉鶴洋一(ピオラ)さんと吉鶴ゆかり(電子ピアノ)さんによる「平和祈念コンサート」が2010年8月8日に2階常設展示室で開かれました。

Tel:03-5619-7034 Fax:03-3625-3431

http://www.city.sumida.lg.jp/sisetu_info/siryou/kyoudobunka/index.html

豊島区立郷土資料館: 東京

2009年度冬の収蔵資料展が2010年1月14日～3月の会期で開催されました。さまざまなテーマに沿って収蔵資料を紹介していましたが、その中で、「戦時下の子どもたち―学童疎開」では、第二次世界大戦(アジア太平洋戦争)の末期、長野県上田市と同県小県郡神川村(現・上田市)に集団疎開した仰高国民学校学童の、父兄や兄弟姉との間の書簡を展示していました。「空襲記録写真と区民生活」では、1945年4月13日などの空襲によって、豊島区は約3分の2の区域が焼失しましたが、警視庁の警官であった石川光陽が撮影した被災地の記録写真と、区民生活に関連する資料を展示していました。

2010年の春の収蔵資料展が2010年4月1日から6月23日の会期で開催されました。そこでも引き続き、戦時下の子どもたち、空襲記録写真と区民生活についての展示をしていました。

豊島区立郷土資料館研究紀要『生活と文化』第19号が2010年3月27日に発行され、青木哲夫さんの「一九四五年八月九・一〇日山形県神町・楯山への艦上機攻撃―疎開学童の見た空襲とは何であったか」などが掲載されています。

豊島区立郷土資料館調査報告書第21集・集団学童疎開資料集(10)「日記・書簡編IX―仰高国民学校(続)」が2010年1月20日に発行されました。

Tel:03-3980-2351 Fax:03-3980-5271

<http://www.museum.toshima.tokyo.jp/top.html>

めぐろ歴史資料館: 東京

春期企画展「戦後65年 目黒の空襲と銃後生活」が企画展示室で2010年4月13日～6月20日の会期により開催されました。戦争の記憶を風化させず、再び惨劇を繰り返さないためにも、太平洋戦争下の人びとの生活、空襲の実態などを史実として再確認することが必要だと考え、現代にも通じる戦争と平和を考えるきっかけとするために開いたものです。1945年4月から5月にかけて目黒地域は度重なる空襲を受け、戦争終結までの間で1800名を超える死傷者を出しました。所蔵資料の中から、空襲の過酷さを伝える当時の日記、写真、戦中・戦後のさまざまな生活道具などを展示し、「銃後」の名のもとに厳しい生活を強いられた庶民の側面を紹介したものでした。

展示内容は、「町の中の統制」では、戦中、男性が兵士として出征していくと、家庭生活・都市生活の面で女性の果たす役割が大きくなり、とくに、戦争や軍援助の準備などをおこなう婦人会の活動が活発化しますが、目黒地域の愛国婦人会、大日本国防婦人会などの活動を、このコーナーでは紹介していました。「物資統制と代用品」では、国家総動員法の制定によってあらゆる物資が軍事優先となり、米、味噌、しょうゆなどの生活必需品までもが配給となり、さらに1941年9月、金属回収令が施行されると、生活の中から金属器が消えていきました。このコーナーでは物資統制中に考案され、実用化されていた陶製、木製の代用品を展示していました。「空

襲下の目黒」では、1945年5月24日、25日にかけて、目黒地域を大きな空襲がおそいましたが、その被害の詳細を記した日記や文献、当時の消火道具などを通して空襲下にある市民生活の様子を展示していました。「戦後の生活」では、東京をはじめとする各都市への空襲、広島・長崎への原爆投下を経た後、日本はポツダム宣言を受諾し終戦を迎えました。しかし戦後すぐに急速に生活向上が果たされていったわけではありません。しばらくは物資や食糧が不足し、また各地には闇市がたてられ、苦しい生活は続きました。このような状況の中、いかにして人びとは生活を営み、復興に向けて歩みをすすめたのかを、このコーナーでは資料を通して考えようとしていました。

Tel:03-3715-3571 Fax:03-3715-1325

<http://www.city.meguro.tokyo.jp/shisetsu/shisetsu/bijutsu/kyodo/index.html>

青梅市郷土博物館：東京

「戦争と生活展」が2010年7月3日～8月22日の会期により開かれました。初めての戦争関係展示会で市民から寄贈された博物館の収藏品、カルタ、漫画、代用品、配給通帳、もんぺ、国民服、防空関係資料、千人針、軍装品、墨塗り教科書などを展示しています。戦時中の苦しい時代の生活を未来に語り継ぎ、このような悲劇を二度と繰り返してはいけないという思いを新たにし、平和のすばらしさや尊さを再認識するために開かれたものです。

Tel:0428-23-6859

<http://www.city.ome.tokyo.jp/kyodo/hakubutsu.html>

八王子市郷土資料館：東京

コーナー展「戦争と人々の暮らし」が2010年7月3日～8月31日の会期で開かれました。空襲・防空・配給・戦意高揚関係資料や代用品などを展示しています。

Tel:042-622-8939 Fax:042-627-5919

<http://homepage3.nifty.com/hachioji-city-museum/>

東大和市立郷土博物館：東京

「写真でたどる多摩の戦跡」が企画展示室で2010年7月17日～9月20日の会期により開かれました。多摩地域に残る、空襲の痕跡や軍事施設を写真で紹介し、戦争の怖さや悲惨さを感じ、あらためて平和の大切さを考えるために開かれたものです。

Tel:042-567-4800 Fax:042-567-4166

<http://www.city.higashiyamato.lg.jp/24,0,297.html>

福生市郷土資料室：東京

特別展示「戦時下の学校とこどもたちー平和のための戦争資料展」が2010年7月10日～10月3日の会期で開かれました。福生市郷土資料室では、毎年終戦の日に合わせて戦争関連資料の展示会を開催しています。これは現在までに福生に残された戦争関連資料から、現在の尊い平和についての再認識を促すことを目的とした展示会です。

今回の特別展示では、戦時下の学校とこどもたちにスポットを当て、学校教科書、教育勅語、こどもたちの日用品、絵本、児童雑誌、紙芝居、双六などの資料から、戦時中の児童文化に迫っています。また、国民学校の防空日誌、配給切符・通帳、供出関係資料、絵葉書、千人針、軍隊手帳、墨塗り教科書なども展示しています。本年は太平洋戦争が終結してから65年、そして福生が市制を施行してから40年となります。時間が過ぎじよに戦争の記憶が薄れていきつつありますが、地域に残された戦時資料やこどもの教育資料などから福生と戦争の歴史について考えてみるものです。

関連して、2010年度郷土資料室特別展示記念講演

会「戦中戦後の学校と児童文化」が2010年7月31日に、明星大学教育学部教授菱山寛一郎さんを講師に開かれました。これは、絵本や紙芝居といった戦時中の資料から、当時の児童文化に迫るものでした。

Tel: 042-530-1120 Fax:042-552-1722

<http://www.museum.fussa.tokyo.jp/event/03.html>

世田谷美術館 宮本三郎記念美術館：東京

「宮本三郎 1940-1945」が2010年7月31日～11月28日の会期で開かれています。宮本三郎(1905-1974)は戦争記録画「山下・パーシバル両司令官会見図」で有名です。1940～1945年という戦時色に支配された激動と混迷の時代を軸とし、それ以前の滞欧期、戦後直後荒廃した時期に描かれた作品も紹介しています。また、当時の世相を反映した蔵書、従軍した中国・フィリピンで撮影された写真なども展示し、時代の変遷と対峙した、画家・宮本三郎の足跡をたどっています。

Tel:03-5483-3836 Fax:03-3722-5181

<http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>

墨田区立緑図書館：東京

「資料展 疎開・大空襲と平和への願い」が2010年3月5日～25日の会期で開かれました。堀切正二郎さんによる空襲で焼失した石原の街の絵や体験者の声を絵に収めた作品、アメリカ軍が大空襲にあたって撮影した本所の空撮写真、学童疎開日誌の写しや写真、庁舎の一階ホールの「平和のオブジェ」製作に参加している相馬効子さんの、平和への願いをこめたさまざまな形の折鶴を展示しました。

「昭和の戦争資料展」が2010年7月31日～8月15日の会期で開かれました。図書館資料の中から、戦時中発行の図書資料、戦災の記録資料、写真集など、65年前に終結した戦争の資料を展示していました。

関連して、すみだ文化講座で日比恒明(戦史研究、玉ノ井研究家。弁理士・日比特許事務所長)さんの講演「終戦の日のルポルターージュー玉音放送の実像」が、2010年8月14日に3階学習室で開かれました。

Tel:03-3631-4621

http://www.city.sumida.lg.jp/sisetu_info/library/info/sunidabunkakouza/index.html

東京復興記念館：墨田区

「石川光陽が遺した戦災写真パネル特別展」が2010年2月16日～3月14日の会期で開かれました。

Tel:03-3622-1208

早稲田大学会津八一記念博物館：東京・新宿区

早稲田大学大学史資料センターの2010年度春季企画展「没後50年ー浅沼稻次郎とその時代」が会津八一記念博物館の企画展示室で2009年3月25日～4月17日の会期で開催されました。日比谷公会堂の3党首立会演説会の場で右翼の青年に刺殺されるという、その衝撃的な死から半世紀を迎えます。政治家浅沼稻次郎60年の生涯を歩んだ時代とともに追い、「人間機関車」と呼ばれた大衆政治家の実像に迫るものでした。展示構成は 1. 1960年10月12日 日比谷公会堂 2. 早稲田での日々 3. 無産者の解放を目ざして 4. 革新の旗手 5. 委員長就任とその最後 です。図録を刊行しています。

Tel:03-5286-3835 Fax:03-5286-1812

<http://www.waseda.jp/aizu/index-j.html>

昭和館：東京・千代田区

特別企画展「館蔵名品展 版画に描かれたくらしと風景」が3階の特別企画展会場で開かれ、第1期は2010年3月13日～4月11日で、第2期は4月13日～5月9日です。

た。版画を通して、昭和初期から戦後にかけての風景や人びとの様子を紹介するものでした。追加出品で村松乙彦さんの空襲被災のスケッチ画、尾張町四丁目交差点、蒲田、東京駅洗面所の3枚を展示していました。図録刊行と展示目録を刊行しています。

特別企画展 終戦65周年記念「戦争で家族を亡くしてが」が2010年7月31日～8月29日の会期で開かれました。出征により家族と離ればなれになった人びとは、戦地と銃後に身を置きながらもお互いを思い、祖国の勝利を信じて戦いました。そのようななかであって、不幸にも戦死した兵士の遺家族はもとより、出征した者のいる家族に対しても、国による援護の他、職場や学校、近所づきあいに至るまでさまざまな助け合いがおこなわれていました。1945年8月15日、敗戦により国民の暮らしは一変します。中でも頼るべき存在を失った戦没者遺族の生活は辛苦を極めました。自分たちのくらしは自分たちで切り開くしかない厳しい日が続きましたが、人びとは新しい時代に向けて一生懸命に生き、それがいち早い戦後の復興へと続いていったのです。終戦65周年を記念して開催する本展では、戦中・戦後を生きた人びとの証言とともに、新たに収集した出征遺家族に関連する資料も展示しています。

昭和館1階ロビーにおいて、図書資料や映像・写真資料の一部を随時紹介しています。

第22回「堀切正二郎さんが描く東京大空襲」が2010年3月2日～4月18日の会期で開催されました。堀切正二郎さんは、東京大空襲の当夜、軍需工場の当直に当たっていたため、空襲の被害を避けることができました。夜が明けて、惨たらしい焼け跡の中を家族の安否を求めてさまよい、浅草や両国の周辺を捜し回りましたが、家族の姿はどこにもありませんでした。堀切さんは空襲の記憶を封印し続けましたが、あの夜の出来事を永く伝えていかなくてはいけないという使命感から、筆をとりはじめました。寄贈された絵の一部が展示されました。

第23回「村岡信明 淡彩と墨痕で描く東京大空襲」が2010年4月20日～5月31日の会期で開催されました。東京大空襲を体験され、その体験を絵画にした村岡信明さんから油絵19点と淡彩・墨痕画約160点が、東京大空襲から65年目に当たる本年3月10日に寄贈されました。淡彩・墨痕画の一部が展示されました。

第24回「終戦65周年 特別企画 昭和20年刊行の雑誌」が2010年6月1日～7月19日の会期で開催されました。終戦の年、1945年は戦中から戦後へと激動の一年で、物資等の不足から、発行された雑誌数も極めて限られていたようです。そうした貴重な雑誌の中から『週刊少国民』と『アサヒグラフ』が展示されました。

Tel:03-3222-2577 Fax:03-3222-2575

<http://www.showakan.go.jp/>

地球市民かながわプラザ:横浜市

展示ボランティア自主企画「横浜の大空襲を中心にした神奈川の空襲ー横浜大空襲から65年」がおこなわれました。二度と悲惨な戦争や紛争が起きないように、過去の出来事を後世に語り継いで、戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さを再認識し、新しい世代につないでいくために開かれました。空襲・防空関係資料、配給関係資料、米つき瓶、すいとん、ご真影、雑誌、教科書、竹槍、木銃、軍装品、横浜・川崎・横須賀・平塚・小田原の空襲写真などを展示する資料展・写真展は2010年5月29日～8月31日の会期により開かれました。講演会は2010年5月29日～6月4日に実施されました。

企画展「微笑(ほほえみ)を浮かべて『ライフ』報道写真家が捉えた戦争と終戦ーキャパ、スミス、スウォープ、三木」が3階の企画展示室で2010年6月12日～7月31日の会期により開かれました。『ライフ』誌の報道写真家4人が戦争と終戦を、おのおのの写真家の感性で捉え

た写真作品は、起きた戦争の現実と未来への望みを表現しています。写された当時の情景や日本人の姿は、遠く感じられるように思えます。しかし、高質なヴィンテージプリント作品は、遠くにあった戦後65年の時間軸を一気に駆け上がり、戦争の悲惨さを再認識させ、敗戦から立ち直ろうとする日本人の姿を浮かび上がらせてくれます。出品写真家のひとり、ジョン・スウォープから向けられた日本人の顔には「微笑(ほほえみ)」が浮かぶ。戦争が終わったという安堵の笑みなのでしょうか。ロバート・キャパ、ユージン・スミス、ジョン・スウォープ、三木淳の157点を展示していました。これは清里フォトアートミュージアムが制作した展示会の巡回を受けたもので、図録も清里フォトアートミュージアムが作成しています。

Tel:045-896-2121 Fax:045-896-2299

<http://www.k-i-a.or.jp/plaza/>

川崎市平和館:神奈川

「川崎大空襲記録展ー私たちのまちに「空襲」があった」が2010年3月13日～5月9日の会期で開催されました。川崎大空襲は、1945年4月15日午後10時3分に空襲警報が発令され、ほとんど同時に爆撃が開始されました。第4回目の今回の記録展では、「空襲」の悲惨な状況を伝え、平和について考えるために、地域と空襲に焦点をあてた展示をしていました。

館蔵の空襲関係や生活用品資料では、焼夷弾の筒、体験記、聖戦の思い出、お守り、懐中電灯、ハーモニカ、実用手帳、週報ー戦時農園、茶碗、木炭アイロン、ジュラルミンのかま・なべ、陶製のガスコンロ・こたつ、井上俊郎さんの絵、刺し子、鉄帽などを展示していました。銃後の備えと空襲、戦中の学童と学徒、統制下の暮らしの解説パネルセット、東京空襲の被害をアメリカ軍が写した写真パネル、慰問袋、常会徹底事項、衣料切符、ジュラルミンの鍋、婦人会たすき、少国民の友、警防団手帳、時局防空必携、赤紙、軍隊手帳、鉄帽、学徒隊腕章・名札、通信表、疎開先で書いた絵、布製ランドセルなどの資料を、昭和館から借りて展示していました。罹災証明書、罹災見舞金袋、溶けたガラス瓶、溶けたガラス、罹災した辞書、出勤名簿、川崎監視哨記録簿などの川崎市民ミュージアムの戦災関係資料も展示していました。川崎市公文書館所蔵の、1945年4月4日の空襲、防衛・防空・戦争中の行事・生活などの資料も展示していました。

関連して「語り伝える「川崎大空襲」ー対談と音楽と」が2010年3月27日に開かれ、合唱を神奈川県立住吉高等学校有志が、フルート四重奏の演奏を東京交響楽団フルート奏者の中川愛さんとその仲間たちが、それぞれおこない、空襲体験談「小杉地域と川崎大空襲」を、吉房正三さん(中原区町内会連絡協議会会長、平和館運営委員)が語り、その後岩本孝子さん(川崎市地域女性連絡協議会理事、平和館運営委員)、神奈川県立住吉高等学校有志と対談をしました。

シンポジウム「戦争体験を語る・聞く」が2010年3月28日に開かれ、4年間にわたり戦争体験者から聞き取りをした法政大学第二高等学校歴史研究部などの高校生たちが、その体験を基に「平和」について語り合いました。

Tel: 044-433-0171 Fax:044-433-0232

<http://www.city.kawasaki.jp/25/25heiwa/home/heiwa.htm>

明治大学平和教育登戸研究所資料館:神奈川・川崎

明治大学平和教育登戸研究所資料館が2010年3月29日に開館しました。旧陸軍の登戸研究所は「秘密戦」のための生物化学兵器、スパイ用品、電波兵器、風船爆弾などを開発するとともに、中国国民政府紙幣の偽札を製造していました。この登戸研究所の建物を保存し、その中に登戸研究所の全貌を伝える展示をし、戦争と

平和を考える場として、明治大学が歴史教育・平和教育・科学教育の発信地とするために創られたものです。
所在地: 〒214-8571 川崎市多摩区東生田1-1-1
Tel: 044-934-7993
<http://www.meiji.ac.jp/noborito/index.html>

相模原市立博物館: 神奈川

学習資料展「戦争中から戦後の生活」が2010年1月23日～4月4日の会期で開催されました。学習資料展では博物館資料の中から、小中学生の授業に役立てることのできる資料を展示し、「ちょっと昔の暮らし」を紹介しています。今年は、「戦争中から戦後の生活」をとりあげ、当時の人びとの生活のようすやその変化に焦点をあてていました。少しでも、当時の人びとの思いに近づければと思って、開けられました。

展示構成は、1. 軍都相模原の誕生 軍都として開発された相模原の軍都計画や陸軍施設に関する資料など相模原と軍とのかかわりを紹介していました。2. 兵士と家 出征する兵士と無事を祈りながら送る家族を取り上げ、軍服や千人針などの戦争中の資料を紹介していました。3. 身近な生活用具 戦争中から戦後へと大きく変化した生活用具を「調理する」や「保存する」、「洗う」、「音楽を聴く」などのテーマごとに紹介していました。4. 昔の教室 昔のなつかしい教室の姿を再現して、子どもたちの学校での生活を紹介し、時代ごとの給食の変化についても紹介していました。主な展示資料リストを載せた解説資料を作成しています。

Tel: 042-750-8030 Fax: 042-750-8061
<http://www.remus.dti.ne.jp/~sagami/>

平塚市博物館: 神奈川

夏期特別展「市民が探る平塚空襲」が2010年7月10日～9月5日の会期で開けられました。平塚市博物館では1989年以来、空襲体験者を含む市民らで構成される「平塚の空襲と戦災を記録する会」が、平塚空襲の証言の聞き取り調査や、関係資料の収集などを進めてきました。本展示は平塚空襲65年を節目として、同会のこれまでの調査・研究成果に、1995年開催の夏期特別展「44万7716本の軌跡ー平塚の空襲と戦災」以降に収集された資料も加え、市民の手により明らかとなった平塚空襲の実態や、市民と戦争とのかかわりを展示・発表しています。図録を作成しています。

展示構成は、1. 平塚空襲の全体像 2. 資料にみる米軍の作戦計画 3. 空襲被害 4. その他の空襲 5. 復興に向けて 6. 振り返る空襲への道のり です。

関連して、フォーラム「平塚空襲を考えるー沼津・富山の体験者とともに」が2010年7月17日に開かれ、平塚・沼津・富山各都市の空襲体験者の証言から平塚空襲の特徴を浮き彫りにしました。記念講演会「なぜ、平塚は空襲されたのか」が2010年8月7日に開かれ、元平塚市博物館長の土井浩さんが講演しました。

Tel: 0463-33-5111 FAX: 0463-31-3949
<http://www.hirahaku.jp/>

神奈川県立近代美術館葉山館: 葉山町

「版画と彫刻による哀しみとユーモア 浜田知明の世界展」が第1～4展示室で2010年7月10日～2010年9月5日の会期により開けられました。版画家としても活躍する浜田知明(1917-)の芸術を回顧する展覧会です。戦争の悲惨さや軍隊の理不尽を暴いた初年兵哀歌のシリーズから、現代人の孤独や滑稽さを風刺した作品まで、版画約160点、彫刻約60点などを展示しています。浜田知明から2008年に版画128点を寄贈してもらった記念の意味で開かれたもので、所蔵の版画、寄託の彫刻とともに熊本県立美術館の所蔵作品も展示しています。版画では、「初年兵哀歌」のシリーズや、戦争批判を表

現したその後の作品などが、彫刻では、戦火で焼失した町にたどる少女を表現した「風景」や、「初年兵哀歌」のシリーズから着想をえたものなどがあります。また、中国戦線でのスケッチ、熊本空襲の焼け跡を描いたスケッチ、中国での日本軍の行軍とそれを家の窓からのぞく中国の子どもの顔とをコラージュ風に描いたデッサンなども展示していました。図録を刊行しています。

関連して、講演会「版画家、彫刻家としての浜田知明の芸術」が2010年8月7日に開かれ、橋秀文(「浜田知明の世界展」担当学芸員)さんが講堂で講演しました。
Tel: 046-875-2800
<http://www.moma.pref.kanagawa.jp/public/HallTop.do?hl=h>

ゆきのした史料館: 福井

福井空襲大絵図が福井県立図書館で8月1日から31日まで展示されました。空襲、戦災に関する体験記、戦争を背景として文学作品などが展示されました。
Tel: 0776-52-2169

信濃デッサン館別館槐多庵: 長野・上田市

2010年9月5日～16日、信濃デッサン館の別館「槐多庵(かいたあん)」で、日本ビジュアル・ジャーナリスト協会(JVJA)の写真家たちによる写真展「世界178の顔」が開催されました。信濃デッサン館は窪島誠一郎氏(戦没画学生慰霊美術館「無言館」館主)が、画家・村山槐多らの作品を収集して1979年に開設した美術館で、槐多庵はその別館。

「178の顔」は、最も広い意味での平和や暴力にかかわる人々の表情を、国境を越えていろいろな写真家が記録した写真を一堂に会したもので、戦争・地域紛争・人権抑圧・環境破壊・児童労働・少年兵・難民・公害・核実験・差別・貧困・災害・過労・生と死など、さまざま人間の表情を豊かに捉えている点が最大の特徴です。

今回の写真展は、窪島誠一郎氏の理解のもと、写真家の山本宗補さんが中心となって準備されました。「信濃デッサン館ニュース」最新号には、山本宗補さんと安斎育郎さん(立命館大学国際平和ミュージアム・名誉館長、平和学)の対談が紹介されています。
Tel: 0268-38-6599 Fax: 0268-38-8263

静岡平和資料センター: 静岡市

大空襲65周年「静岡・清水 大空襲展ー今なお続く世界の武力紛争」展と「岡本武一 空襲版画展」が2010年6月4日～10月3日の会期で開けられました。
Tel: 054-247-9641 Fax: 054-247-9641
<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa/>

磐田市歴史文書館: 静岡

企画展「公文書にみる戦争と磐田ー徴兵資料からみた15年戦争」が2010年4月5日～9月30日の会期で開けられました。今年で終戦から65年が経過し、現在4人に3人は戦後生まれといわれています。戦争の記憶が薄れていこうとする今日、少しでも戦争を語り継いでいこうと、磐田市に残る全国でも希な徴兵資料が初公開されています。また、敗戦直後、降伏軍使として飛び立った帰路に鯨島海岸に不時着した一式陸攻の尾翼の一部を特別展示しています。戦争と平和について考える機会となる展示です。

Tel: 0538-66-9112 Fax: 0538-66-9722
<http://www.city.iwata.shizuoka.jp/guide/587.html>

桜ヶ丘ミュージアム 豊川市郷土資料展示室: 愛知

「豊川海軍工廠展」が2010年7月17日～8月29日の会期で開けられました。桜ヶ丘ミュージアムでは、豊川海軍

工場の歴史や戦争について知り、私たちの街にもあった戦争について考えるために、毎年夏の時期に「豊川海軍工廠展」を開催しています。豊川海軍工廠は、海軍兵器の生産を目的として1938年に旧宝飯郡豊川町・牛久保町・八幡村にまたがって建設することが決定され、1939年12月15日に開庁しました。機銃及び弾丸や艦船で使用する測距儀、双眼鏡、射撃装置などを生産し、機銃の生産に関しては日本最大の規模でした。工廠の発展は、人口の増加や各町村の結びつきを強めることとなり、豊川市の誕生・発展に大きな影響を与えました。しかし、1945年8月7日の米軍B29爆撃機124機などの空襲により壊滅的な被害を受け、2500人以上の人が犠牲となりました。

本展では、館が収蔵する海軍工廠の生産品・工具・生活用品などの資料に加え、旧御津町所蔵の戦時資料・兵事資料も展示します。また館では、戦争を経験した方に豊川海軍工廠に関する絵を描いてもらい、収集・公開する試みを2007年よりおこなっています。これは豊川市にもあった戦争を後の世代へ伝えるため、視覚的に捉えることのできる絵画資料が必要と考えて始めたものです。

Tel:0533-85-3775 Fax:0533-85-3776
<http://www.city.toyokawa.lg.jp/tanto/bunka/museum.html>

四日市市立博物館：三重

学習支援展示「四日市空襲と戦時下の暮らし」が3階サルビアギャラリーで2010年6月12日～9月5日の会期により開かれました。平和学習の支援を目的に、四日市が空襲に遭ったことや、戦時中の暮らしのようすを実物資料や写真パネルで紹介するもので、防空壕や焼夷弾の模型も展示しています。

Tel:059-355-2700 Fax:059-355-2704
<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/>

多気町多気郷土資料館：三重

企画展「戦争が作らせた図像―国策紙芝居を中心に」が2010年1月7日～3月21日の会期で開催されました。今年で太平洋戦争終結から65年。戦争体験者が年々減少するなか、戦争は決して忘れてはならない記憶として常に顧みて語り継いでいかなければなりません。本企画展では戦時中に作られた戦争に関わる図像（何らかの意味やメッセージを持つ絵）に注目していました。展示は国策紙芝居でした。昭和初期に生まれ、ブームとなった紙芝居。やがてその人気を利用し、戦争に協力する国民を育てようという教育的意図に基づく紙芝居が作られるようになりました。それが当時、教育紙芝居と名づけられ、今、国策紙芝居と呼ばれているものです。これらの多くは戦後、後難を恐れて焼却されたり、GHQに没収されたりして忘れ去られていました。

本企画展では、昨年度寄贈された3点の国策紙芝居のほか、戦意高揚や国策宣伝のために各種出版物やモノに描かれたさまざまな図像を紹介していました。戦争が作らせた図像は何を物語るのでしょうか。この展示が戦争の恐ろしさと平和の尊さについてあらためて考えるきっかけになればと思って、開かれたものです。

その後、多気町勢和郷土資料館でも、2010年4月14日～6月25日の会期で開催されました。

多気町多気郷土資料館企画展「戦争と絵ハガキ」が2010年7月9日～9月26日の会期で開かれました。20世紀前半の大戦中などに発行された絵はがき227枚を集めた展示会で、戦地の様子を伝えるものや国策を宣伝するようなものなど、戦時中に発行されたさまざまな絵はがきを通して、当時の人びとの暮らしや思いを探るものです。

TEL0598-38-1132

浅井歴史民俗資料館：滋賀・長浜市

企画展「第8回終戦記念展―戦時下の少年少女たち―学徒勤労動員の日々」が2010年7月22日～9月5日の会期で開かれました。企画展「平和を考える終戦記念展」は、第2次世界大戦など戦争の歴史を、兵士やその家族の遺品、地域住民の証言などで紹介する展示会です。

今夏のテーマは、国が第2次世界大戦末期の1943年以降、中等学校以上、10代の青少年を労働力不足の軍需産業や食糧増産の現場に投入し、過酷な労働を強制していった学徒勤労動員です。当時16歳で木之本高等女学校の生徒だった安達光子さんが勤労動員の現場で1944年7月から翌1945年3月までつづった「日記帳」を始め、彦根工業高校の生徒が製造した機関砲の砲弾、携帯が義務付けられていた生徒証明書や、当時の中学制服など30数点を展示しています。安達さんの日記には、シラミと空腹に悩まされる宿舍生活、労働の過酷さなどをうかがわせる部分もありますが、日記が検閲されていたため「苦しい」「つらい」などの記述はありません。

関連して、資料館隣の浅井図書館2階で2010年7月31日に、歴史講座「滋賀県学徒勤労動員の記録」が開かれ、同タイトルのルポルタージュ本の著者で、滋賀県立長浜北星高校教諭の水谷孝信さんが講演しました。また、戦争体験を紙芝居などで語り継ぐ活動が続ける大津市在住の沖村まいはさんの、紙芝居公演「ぞうをよんだ子どもたち」が資料館内の七りん館で2010年7月25日に開かれました。

Tel:0749-74-0101
<http://www.city.nagahama.shiga.jp/index/000012/002487.html>

大津市歴史博物館：滋賀

第85回ミニ企画展「大津・戦争・市民」が2010年7月21日～9月12日の会期で開かれました。太平洋戦争が終わってから65年になり、戦争の記憶が薄れつつあります。悲惨な戦争と市民生活のありさまを後世に引き継いでいくことの大切さを、さまざまな戦時資料を通して考えるものです。

Tel:077-521-2100 Fax:077-521-2666
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

京都市学校歴史博物館

企画展「学童集団疎開の記憶」が2010年6月25日～9月27日の会期で開かれています。太平洋戦争が激化し、本土決戦を目前にして、文部省は学童の縁故疎開を促しましたが、1944年6月30日、国民学校初等科児童の集団疎開が閣議決定されました。京都市は最初、疎開をおこなう都市ではなかったのですが、1945年1月、修道学区の馬町が空襲を受け、日増しに状況が緊迫したため、同年3月の春休みに入った時点から、新3年生以上の第1次集団疎開が始まりました。疎開先は地域ごとに京都府下の町村が指定され、宿舎には寺院や教会、旅館などが寮として提供されました。疎開児童は、疎開先の国民学校で地元の児童と一緒に授業を受け、放課後は畑を耕すなどの労働につきました。約7か月間の疎開生活を親元から離れて暮らした幼い子ども達は、空腹感とホームシックとシラミなどの害虫に悩まされ、逃げ出す児童もいました。また、引率教員にとっても児童の命を預かった苦しい7か月間でした。一方、疎開児童を受け入れた地域の住民との交流は、思い出深い記憶として残り、年月を経た現在まで交流が続いている例もあります。二度と同じ歴史を踏まないために、貴重な体験をした人びとの記憶を収集し、集団疎開の実情に迫る当時の資料を展示することで後世に伝え、平和と人権

の大切さを感じる展覧会です。解説資料と展示資料リストを作成しています。

Tel:075-344-1305 Fax:075-344-1327

<http://kyo-gakurehaku.jp/>

大阪国際平和センター(ピースおおさか):大阪市

特別展「焦土大阪－写真で見る大空襲」が1階特別展示室で2010年3月11日～7月11日の会期により開催されました。大阪は太平洋戦争末期、50回をこえる空襲にみまわれ、大阪市の中心部は焦土と化しました。今回の特別展は、近年新たに発見された被災写真資料などの展示により、視覚的に大阪大空襲の全貌を明らかにするものです。大阪大空襲の被害の実相を示す写真資料を中心とする写真・文字パネル(約100点)と「1トン爆弾の破片」「警防団鉄帽」「防空頭巾」などの実物資料(約40点)を展示していました。

3・13大阪大空襲 平和祈念事業「焦土大阪－写真で見る大空襲」が2010年3月13日に1階講堂で開かれ、大阪電気通信大学教授の小田康徳さんが講演しました。Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://www.peace-osaka.or.jp/>

堺市立平和と人権資料館(フェニックス・ミュージアム):大阪

企画展示「堺大空襲－体験画と記録写真を通して」が2010年6月1日～7月31日の会期で開催されました。堺空襲の体験画や当時の記録写真を通して、戦争は最大の人権侵害であることを忘れずに、「戦争の悲惨さ」「平和の尊さ」について考えるものでした。1941年に始まった太平洋戦争。1945年になると日本の各都市への空襲がおこなわれました。堺市への空襲は、1945年3月13日に始まり、6月15日、同月26日、7月10日、8月10日と5次にわたりました。なかでも7月10日未明の第4次空襲は、一夜にして1860人が死亡し、18000戸余りの家屋が焼失、歴史ある市街地の大半が一面の焼け野原となる悲惨なものでした。その悲劇から65年が経過し、わたしたちは戦後の平和と繁栄のなかで、平和の尊さを忘れがちです。

Tel:072-270-8150 Fax:072-270-8159

http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/_jinken/

大阪人権博物館(リパティおおさか):大阪市

企画展「韓国併合100年・親子で学ぼう！日本と朝鮮半島の歴史－古代から現代、そして未来へ」が特別展示室で2010年6月22日～8月29日の会期により開かれました。今年は、日本が朝鮮半島を植民地とした「韓国併合」から、100年となる節目の年です。本展は、これを機に日本の朝鮮半島との関係を見つめなおすことを目的として企画されたものです。古代から現在にいたる日本と朝鮮半島との関係、そして在日コリアンをめぐるさまざまな問題について、一問一答で学ぶことができるように展示を構成しています。これからの日本と朝鮮半島との、よりよい関係を築いていくために何が必要なのか。多文化共生社会を実現するための課題とは何か。本展は子どもたちやみなさんがこのようなことを考えるきっかけとするために開かれました。体験コーナーでは、朝鮮半島の文化や遊びに親しむことができる資料や遊具を用意していました。

展示概要は次のようになっています。

1. 日本と朝鮮半島をつなぐ人びと－在日コリアンについて学ぼう

①「在日コリアン」って、どんな人のことを言うの？

②なぜ日本にきたの？

③日本ではどのような暮らしをしていたの？

④どんな仕事をしていたの？

⑤どんな差別問題があるの？

2. 朝鮮半島が「日本」だった時代－植民地の時代を学ぼう

①「植民地」ってなに？

②「韓国併合」ってなに？

③朝鮮半島の人たちは「日本人」になったの？

④朝鮮の人たちは反対しなかったの？

⑤朝鮮で日本はどんな政治をおこなったの？

⑥子どもたちは学校では何を習っていたのかな？

⑦アジア・太平洋戦争では、朝鮮の人たちはどちらの味方をしたの？

3. 倭乱から朝鮮通信使へ－もう一つの戦争から平和を学ぼう

①どうして豊臣秀吉は朝鮮に出兵したのですか？

②どうして江戸幕府は朝鮮との国交回復を急いだのですか？

③朝鮮通信使とはどんな使節だったのですか？

4. 日本と朝鮮半島－悠久の歴史を学ぼう

①渡来人ってどんな人たちだったのですか？

②白村江の戦いは、なぜ起こったのですか？

③日本の文化にどんな影響があったのですか？

5. お隣の国－韓国、北朝鮮との関係を学ぼう

①韓国ってどんな国ですか？

②北朝鮮ってどんな国ですか？

③植民地の歴史は終わった話ではないのですか？

④拉致問題とは何ですか？

⑤日本と朝鮮半島の未来のために、私たちができることって何ですか？

Tel:06-6561-5891 Fax:06-6561-5995

<http://www.liberty.or.jp/>

歴史館いずみさの:大阪

ホール展示「戦争・平和資料展－戦時下の暮らし」が2010年7月31日～8月29日の会期により開かれました。8月15日の終戦記念日を迎えるにあたり、戦争の悲惨さを風化させないで、平和を考えるために開かれたもので、展示作業は博物館実習生が担当しています。

Tel:072-469-7140 Fax:072-469-7141

<http://www.city.izumisano.osaka.jp/ka/rekishi.html>

姫路市平和資料館:兵庫

収蔵品展「手作りのお守り」が2階展示室で2010年1月9日～3月28日の会期により開催されました。資料館は、市内外の方がたから太平洋戦争当時の貴重な現物資料の寄贈を受けています。この資料の中からテーマを絞って毎年収蔵品展を開催しています。今回のテーマは、千人針など「手作りのお守り」でした。また、過去1年間に寄贈された資料も展示していました。この収蔵品展をみることで、戦争の惨禍と平和の尊さを伝えようと考えて開いたものです。

展示内容は次のようでした。

1. 解説文 千人針の伝承 5点

2. 手作りのお守り

千人針(腹巻、チョッキ、帽子)、硬貨(10銭、5銭)など 40点

3. 過去1年間に寄贈いただいた資料

ゲートル、たすき、記章など 37点

関連して、体験談「戦前の暮らしと姫路空襲」が河野孝幸さんを講師として2010年2月11日に2階会議室で開かれました。

春季企画展「庶民の娯楽」が2階展示室で2010年4月10日～7月4日の会期により開催されました。戦前・戦後の庶民の娯楽から映画・音楽・芸能などを、25点の写真パネルや207点の現物資料で紹介していました。また、姫路市内の演芸館、貸本、ラジオ販売の店舗マップも展示していました。

関連して女優・駒田真紀さんの姫路空襲体験記朗読

会が2010年5月5日に、田路信一さんの姫路空襲体験談が2010年6月20日に、それぞれ開かれました。

「非核平和展」が2010年7月17日～8月31日の会期により開かれました。姫路市では、1985年3月6日の「非核平和都市宣言」以来、その趣旨を広く市民にアピールするとともに、非核平和について考える機会を提供するため、1986年度から「非核平和展」を毎年開催、今年で25回目になります。広島平和記念資料館・長崎原爆資料館所蔵の現物資料、写真パネル、市内小・中・高校生の絵画・書道作品、県立姫路工業高校デザイン科生徒の作品などを展示しています。

姫路市児童合唱団による「平和を共に歌うコンサート」が2010年8月1日に、中本宣子さんの「被爆者体験談を聞く会」が2010年8月8日に、それぞれ開かれました。

Tel:0792-91-2525 Fax:0792-91-2526

<http://www.city.himeji.hyogo.jp/heiwasiryô/>

柿衛文庫：兵庫・伊丹市

夏季特別展「戦後65年 愛する妻へー戦場から900通の絵手紙」が2010年7月10日～8月29日の会期により開かれました。日本画家前田美千雄が連隊や戦場から新妻絹子や家族へ送った絵手紙など千点余が、2003年に柿衛文庫に寄贈されました。戦後65年の節目となる本年、戦争に身をひきさかれながらも最後まで絵手紙によって固く結ばれていた若い画家夫婦の心の軌跡を、明るいタッチの絵と愛情あふれる温かい文章や俳句の添えられた絵手紙で紹介しています。

中国からの絵手紙80枚、金沢栗崎の連隊からの絵手紙183枚、フィリピンからの絵手紙132枚、ほかに短冊・色紙・細密画・スケッチなども展示しています。2005年刊行の第1集の図録に収録しなかった、中国からの172枚、栗崎からの183枚、フィリピンからの132枚、の絵手紙を収録した図録第2集を刊行しています。

関連して、記念講演会、俳人の宇多喜代子さんの「ひとたばの手紙からー戦争・俳句・手紙」が2010年7月24日に開かれました。展覧会関連講座が開かれ、2010年7月10日に俳人の木割大雄さんの「戦争と俳句ー軍国少年・沖縄敗戦句帳・シベリア強制収容所・基地の島」が、2010年8月7日に平井隆二さんの「戦後65年 愛する妻へー戦場から900通の絵手紙」が、それぞれありました。

Tel:072-782-0244

<http://www.kakimori.jp/>

水平社博物館：奈良・御所市

第10回企画展「丹波マンガン記念館」展が2009年12月10日～2010年3月28日の会期により開催されました。丹波マンガン記念館は、在日朝鮮人二世の李貞鎬さんと家族が独力で1989年5月1日、京都府北桑田郡京北町（現京都市）に開館しました。それは、戦争中、強制連行などで多数の朝鮮人が苛酷な労働環境の下で働かされ、若死にしたり、今は散り散りになってしまった同胞のために、かつて彼らが生きたモニュメントとして残そうとした、といひます。1995年3月23日の初代館長・李貞鎬さんの死後、三男・李龍植さんに引き継がれましたが、公的資金等の援助が一切投入されない中、毎年600～700万円の個人の持ち出しは至難でした。開館から20年の2009年5月、丹波マンガン記念館は余儀なく閉館せざるを得なくなりました。水平社博物館で同展を開催するのは、丹波マンガン記念館の営みの歴史を少しでも多くの人びとの記憶に留めていただきたいと願ったからです。

関連して、2009年度水平社博物館講座が2010年3月6日に開かれ、李龍植さん（元丹波マンガン記念館長）が「丹波マンガン記念館の歩みと歴史」と題して話しまし

た。

第13回特別展「『大逆事件』と部落問題ー熊野・新宮グループを中心に」が 特別展示室で2010年5月1日～8月31日の会期により開かれました。日清戦争から日露戦争に向かう過程は、日本における労働運動や初期社会主義運動が本格的に始まる時期でした。社会主義者たちは、日露戦争に一貫して非戦論の立場を貫き、植民地主義・侵略主義の「韓国併合」にも抵抗しました。日露戦争によって拡大した財政や国民生活の行き詰まりを、国内的には「戊申詔書」発布以後の地方改良運動で、対外的には「韓国併合」によって一挙に解決しようとする政府にとって、社会主義者は“国賊”以外の何者でもなく、社会主義者を一掃しようと苛酷な弾圧を加え、「天皇暗殺計画」という「大逆事件」をでっち上げたのです。「韓国併合」と同年に「大逆事件」の検挙を開始したのは決して偶然ではありません。本展は、「大逆事件」の歴史を検証して、部落問題との関わりについて考えるものです。

Tel:0745-62-5588 Fax:0745-64-2288

<http://www1.mahoroba.ne.jp/~suihei/>

岡山市デジタルミュージアム：岡山市

第33回企画展「岡山戦災の記録と写真展」が4階企画展示室で2010年6月4日～30日の会期により開催されました。1944年から45年にかけて、日本全土において市街地を対象とした大規模な空襲がアメリカ軍によっておこなわれました。岡山市の場合は1945年6月29日午前2時43分から4時7分にかけて、市街地中心を目標とした大規模な空襲を受け、市街地の約63%を失い、少なくとも1700人をこえる死者が出ました。この空襲は、どのようなもので何故おこなわれたのでしょうか。当時の状況を語る、焼けて変形した資料や市民の方の証言、アメリカ軍が撮影した写真や動画などから岡山空襲について紹介するものです。

主な展示資料は、岡山空襲で投下された焼夷弾、焼夷弾部品類、レーダー妨害剥片、米軍の撮影した岡山空襲に関連する画像、動画類、岡山空襲の高熱によって変形したガラスや陶器類、死亡証明書、罹災証明書、防空頭巾、灯火管制用カバー、防火用バケツ、非常用持出袋などの実物資料及び空襲前後の岡山市街地の写真パネル類です。リーフレット型の図録を刊行しています。

関連して、記念講演会が2010年6月12日に4階講義室で開かれ、工藤洋三さんが「米軍から見た岡山ー岡山空襲中の写真が語るもの」と題して講演しました。

Tel:086-898-3000 Fax:086-898-3003

<http://www.city.okayama.jp/okayama-city-museum/>

広島平和記念資料館：広島市

2009年度第2回企画展「佐々木雄一郎写真展 第2部 平和を誓う」が広島平和記念都市建設法制定60周年記念として、東館地下1階展示室(5)で2010年2月3日～7月12日の会期により開催されました。

展示構成は次の通りです。

はじめに

1. 原爆ドームが見たヒロシマ

2. ヒロシマで何が起こったか

壊滅の記録、苦難の日々、変わりゆく街

3. 平和の訪れ

子どもと遊び、祭りと行事

4. 耐えて生きる

孤独と不安、傷ついた身心

5. 悲しみと決意

犠牲者を悼む、遺骨は今も、8月6日

6. 語り継ぐために

被爆資料の保存、原爆ドームの保存

7. ヒロシマの願い

広がる動き、静かな祈り

おわりに

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館:広島市

企画展「しまつてはいけない記憶―国民義勇隊と建物疎開」が地下1階の情報展示コーナーで2010年4月1日～12月28日の会期により開かれています。1945年8月6日、広島市では市内及び周辺町村や職場から多数の国民義勇隊員が出動し、動員学徒たちと共に建物疎開の作業に参加していました。原子爆弾がさく裂し、突然の出来事に戸惑いながら逃げ惑う隊員たち。急ぎ救援隊を送り出す地域や職場の混乱。じっと待つ家族や同僚の不安。そして、変わり果てた姿で帰ってきた隊員への必死の看護。こうした様子を体験記を通じて紹介しています。被爆の実相や被爆者及びその家族の悲しみ、苦しみ、そして、平和への強い思いを知ってください。体験記28編と関連資料13点を展示しています。

Tel:082-543-6271 Fax:082-543-6273

<http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

広島城:広島市

企画展「広島城壊滅！―原爆被害の実態」が広島城天守閣第4層で2010年7月16日～9月5日の会期により開かれました。被爆65周年にあわせた、軍事施設に占められていた旧広島城内の原爆による被害状況に焦点を絞った展示です。被爆前の旧広島城内の本丸には天守閣をはじめとする城の建築物が残され、その他軍事施設が立ち並んでいました。しかし、原爆の投下により、天守閣は無残に崩れ落ち、軍事施設も倒壊炎上して壊滅しました。その被害の実態について写真パネルを中心に紹介しています。

Tel:082-221-7512 Fax:082-221-7519

<http://www.rijo-castle.jp/rijo/main.html>

徳島県立博物館:徳島市

2010年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業 徳島平和ミュージアムプロジェクト 特別陳列「海を渡った人形と戦争の時代」が 企画展示室などで2010年7月17日～9月5日の会期により開かれました。1927年、日本とアメリカとの間で、友情と平和の使者として人形を交換しました。しかし、平和への願いもむなしく、その後の日本は中国やアメリカなどとの長い戦争の道に踏み込んでいきました。この展示では、平和の尊さを考える機会として、そうした歴史を振り返るため、アメリカにある徳島ゆかりの人形「ミス徳島」をおよそ20年ぶりに里帰りさせ、かつての人形交換の意義とともに、戦争の時代の苛酷さについて紹介するものです。第1部で青い目の人形と答礼人形を展示し、第2部の「戦争とくらし」で、戦前のくらし、戦場へ、戦時下のくらし、徳島大空襲について展示していました。図録を刊行しています。

関連して、シンポジウム「近代四国における戦争と地域社会」(第3回四国地域史研究大会)が2010年7月25日に文化の森イベントホールで開催されました。

記念演奏・講演会が2010年8月1日に文化の森イベントホールで開催されました。演奏は徳島邦楽集団「THE DOLL」で、講演は原田一美さん(児童文学作家)が「青い目の人形アリスちゃん」と題して話しました。

Tel 088-668-3636 Fax:088-668-7197

<http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/default.htm>

ドイツ館:徳島

ドイツ館では、常設展示のほか、企画展示の開催や、毎年10月には「ドイツェス・フェストinなると」の

イベントも開催されています。また、その周辺には、ドイツ橋、慰霊碑等の俘虜たちの残した遺跡や、その後のドイツとの交流で造られた「ぼんどうの鐘」、ベートーヴェン「交響曲第九」日本初演の地を記念して1997年に造られた「ベートーヴェン像」等の記念施設が点在しますので、ドイツ館にお越しの際は、周辺施設も併せてお楽しみください。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.city.naruto.tokushima.jp/contents/germanhouse/about.html>

高松市市民文化センター平和記念室:香川

高松空襲写真展が高松市市民文化センター1階ロビーで、2010年6月26日～7月11日の会期により開催され、高松空襲や戦争に関する写真パネルや市民が描いた空襲絵画などの収蔵品が展示されました。

高松市戦争遺品展が高松市役所1階の市民ホールで2010年7月26～30日に開かれ、高松空襲や戦争に関する展示などがおこなわれました。

Tel:087-833-7722 Fax:087-861-7724

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/1794.html>

福岡市博物館:福岡

「戦争とわたしたちのくらし19」が部門別 1 歴史展示室で2010年6月15日～8月15日の会期により開かれました。6月19日の「福岡大空襲の日」の前後に、福岡市博物館が所蔵する戦時関係資料を展示するシリーズの19回目。今回は、「銃後の備え」がテーマ。空襲に備えての防空訓練など、「銃後」のくらしの中にあつた「戦争」を考えるものです。主要展示リストを掲載した解説シートを作成しています。

Tel:092-845-5011 Fax:092-845-5019

<http://museum.city.fukuoka.jp/>

大牟田市立三池カルタ・歴史資料館:福岡

「平和展2010 戦時資料は語る」が2010年6月8日～8月29日の会期で開かれました。戦争が終わってから60年以上がたち、私たち日本人は平和で豊かな生活をおくっています。次第に戦争の記憶はうすれ、今では戦争をおろかさや平和の大切さを見て、感じて、知ってもらうために、戦時資料と戦時中のカルタを展示しています。この展示は、あらためて『平和』の意味を考える機会とするために開かれたものです。

Tel&Fax:0944-53-8780

<http://三池カルタ・歴史.com/>

長崎原爆資料館:長崎市

2009年度第3回企画展「原爆資料館収蔵資料展」が地下2階の企画展示室で2010年3月2日～5月10日の会期により開催されました。原爆資料館では、普段展示しているもの以外に、多数の被災資料を収集・保存しています。今回は、その中から昭和20年代から収集・保存・展示され、被爆後初期から被爆体験の継承に役割を果たしてきた35件70点を展示していました。

2010年度第1回企画展「相原秀二写真展」が地下2階の企画展示室で2010年6月15日～9月30日の会期により開かれています。

相原秀二(映画・出版においては「相原秀次」と表記)さんは、日本映画社のスタッフとして、被爆後間もない長崎で、原爆記録映画『広島・長崎における原子爆弾の影響』を撮影し、その惨状を映像として後世に残しました。その後も、多くの方がたの被爆体験記をまとめた『原爆前後』の出版に携わったことでも知られています。原爆資料館では、2007年に埼玉県平和資料館から相原秀二さんの資料の寄贈を受け、調査を進めてきました。相原秀二さんの資料の企画展示第1弾として写真展を

開催するものです。

Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170

<http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/na-bomb/museum/>

ナガサキピースミュージアム:長崎市

「ポーレ・サヴィアーノ写真展 From Above (上空より) in Nagasaki」が2010年6月29日～7月19日の会期により開催されました。ポーレ・サヴィアーノ(paule Saviano)は1974年、アメリカ・ニューヨーク生まれ。12歳よりカメラを持ち始める。専攻は視覚メディア学と政治学。大学卒業後カメラマンとしての活動を開始し、その作品は世界中の雑誌で発表されています。2008年秋よりプロジェクト『FROM ABOVE』を開始し、2009年3月東京にて発表しました。2011年にはドイツ・ドレスデン大空襲被災者の肖像をドイツと東京で同時発表を予定しています。今回は長崎被爆者11人に加え、東京大空襲被災者6人など21点を展示しました。

Tel:095-818-4247

<http://www.nagasaki-pm.com/>

沖縄県平和祈念資料館:糸満市

「沖縄慰霊文学祭 詩歌が綴る追憶と平和の祈り」が2009年12月25日～2010年1月9日の会期により開催されました。

新収蔵品展が2010年6月15日～7月31日の会期により開催されました

Tel:098-997-3844 Fax:098-997-3947

<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp>

那覇市歴史博物館:沖縄

合同企画展「那覇の壊滅と壺屋からの復興」(壺屋焼物博物館と併催)が2010年5月14日～6月30日の会期により開催されました。10・10空襲やアメリカ軍の沖縄本島上陸により、那覇・首里は壊滅的な被害を受けました。しかし、焼物の里壺屋より那覇復興の烽火が揚げられました。歴史博物館では、戦前の那覇の様子から10・10空襲、那覇市域の地上戦を写真パネルや資料などをとおして紹介していました。

Tel:098-869-5266 Fax:098-869-5267

<http://www.rekish-i-archive.city.naha.okinawa.jp/>

那覇市立壺屋焼物博物館:沖縄

合同企画展「那覇の壊滅と壺屋からの復興」が3階企画展示室で2010年5月14日～6月30日の会期により開催されました。1944年10月10日のいわゆる10・10空襲では、那覇市域の90%近くが焼失しました。その半年後の1945年4月1日には、米軍が読谷・嘉手納村の海岸に上陸し、住民を巻き込んだ地上戦となった沖縄戦が始まりました。琉球王国の王都として栄えた首里、琉球処分以降、沖縄県庁が置かれ県都として発展した那覇、さらには首里・那覇に連なる真和志・小禄地域もまた、10・10空襲や地上戦により、多くが焼き尽くされ、破壊され、瓦礫の山が築かれました。一方、那覇の戦後は、壺屋の地から復興の烽火が挙げられました。1945年11月10日、壺屋出身の城間康昌を隊長に、戦前から陶器を製造していた陶工を中心とした103名の先遣隊が壺屋の地に入り、甕・お椀など生活用品を造り始めました。当時の食器はコーラビンを中心に割ったものや空き缶を利用した代用品でしたので、焼物の温かさに触れ、喜んだということです。那覇市歴史博物館と那覇市立壺屋焼物博物館は、慰霊の日を迎える5月・6月の企画展として、両館合同の展示会を実施しました。壺屋焼物博物館では、壺屋から始まった那覇の復興の様子を、陶器製造を中心に紹介しました。

Tel:098-862-3761 Fax:098-862-3762

<http://www.edu.city.naha.okinawa.jp/tsuboya/>

名護博物館:沖縄

企画展「名護・やんばるの慰霊の塔」が博物館ギャラリーで2010年6月12日～27日の会期により開催されました。北部12市町村にある、やんばるの慰霊の塔を写真や拓本で紹介し、恒久平和を願うものです。

Tel:0980-53-1342 FAX:0980-53-1362

<http://www.city.nago.okinawa.jp/4/3628.html>

伊江村郷土資料館:沖縄

企画展「太平洋戦争と伊江島」が2010年6月25日までの会期により開催されました。

Tel:0980-49-2906

宜野湾市立博物館:沖縄

文化課企画展「沖縄戦一戦場イクサバになった宜野湾」が企画展示室で2010年6月16日～7月4日の会期により開催されました。65年前、宜野湾は日米両軍が相対した激戦地の一つとしてイクサバになりました。その前夜から終結後までを、人びとの証言なども交えて紹介していました。写真やさびた銃身、アメリカ軍放出軍服などを展示していました。

関連して、講演会「歴史の証言 宜野湾の戦世を語る」が2010年6月19日に、戦跡めぐりが2010年6月20日に、それぞれ開かれました。

Tel:098-870-9317 Fax(市庁舎):098-870-9316

<http://www.city.ginowan.okinawa.jp/2556/2562/2563/2564/1419.html>

うるま市立石川歴史民俗資料館:沖縄

平和資料展「青い海の沖縄戦一美ら海の遺物・異物」が2010年6月15日～7月11日の会期により開催されました。海中にも砲弾が眠っていることを紹介していました。

Tel&Fax:098-965-3866

<http://www.city.uruma.lg.jp/1/201.html>

その他のニュース

命と平和の語り部「石川・宮森630会」

会長 豊濱光輝

1959年6月30日午前10時40分頃、突然、米軍のジェット戦闘機が石川市6区5班・8班(現うるま市石川松島区)そして、石川市立宮森小学校(現うるま市立)に墜落炎上し、前代未聞の大惨事となりました。

6区5班に墜落した衝撃で跳ね上がり5班・8班の家々を押しつぶし、隣の宮森小学校2年生の3教室にジェット燃料を撒き散らしながら炎上させコンクリート建て2階6年3組の庇に激突。胴体の一部は、教室に突っ込んだのです。

この事故で住民6名、学童11名の尊い命を奪いました。重軽傷児童154名、住民56出す大惨事。まるで一瞬にして生き地獄の校庭でした。

県民4人に1人が犠牲になった、あの悪夢のような沖縄地上戦をくぐりぬけ命拾った住民は、戦争のない平和な時代を迎えて日常の暮らしを守るため一生懸命働いていた。

1959年といえば終戦14年のことである。亡くなった17名のうち5名は悪夢の戦争を生き抜いてきた人たち、そして12名は、戦後生まれである。沖縄戦で多くの命を失った県民にとって戦後の命の誕生は、まさしく希望の星であった。それだけに遺族をはじめ関係者の嘆き悲しみ、そして怒りが尽きる事はなく、その心の傷は50年たった

今日まで引きずって生きてきました。

2009年6月30日は事故から50年の節目にあたる年で、当時2年生だった平良義男さんが校長として赴任。あれだけの惨事を風化させてはならないとの思いから、遺族や当時の教職員、そして同級生に呼びかけ「石川・宮森630館」設置委員会を設立しました。

遺族をはじめ、教職員、同級生は長い沈黙を破り、重い口を開くようになりました。それぞれの立場の生の証言と同時に遺族やマスコミ関係者から遺影、その他写真資料約3300点余が寄せられました。

平良校長が立ち上げた「石川・宮森630館」設置委員会を発展拡大し、宮森小PTA、当時の同級生や教職員さらに地域の住民が一丸となって、常設資料展示場「石川・宮森630館」を建設するため、命と平和の語り部「石川・宮森630会」を組織、引き続き会館建設のための寄付募集を行っております。この会は、建設を推進する会として、1口1000円でうま市民をはじめ県民そして全国民に広く呼びかけています。

「忘れない、忘れてはくれない、忘れてはいけない、私たちは死にたくなかった。」この言葉は悲しくも命を奪われた17名の叫びとして私は受け止めております。どうか、全国の皆様命と平和の尊さを訴えるジェット機墜落事故の常設資料展示場「石川・宮森630館」の建設にご協力下さいますようお願い申し上げます。

<http://www.miyamori630.net/>

映画『ひろしま』

映画『ひろしま』日本の良識の全国の教職員の募金により製作されたものである。それはこの事実と人間の真実の声を後世に残し、二度と過ちを繰り返さないようにと願ったものでもある。65年経った現在、世界には約7500発の核兵器があるとされている。

この『ひろしま』を今の多くの日本人は知らない。また世界の人もだ。それはまさに原爆を知らないということだ。この映画から真実を知り核廃絶への行動の一步を踏みだす勇気こそ人間回復の道であり、難しいが世界の人類の問題や環境を考え、共に歩くという精神を培う時でもある。映画『ひろしま』を直視し未来へのメッセージを発信して人間の絆を回復してこそ僕らは手をつなぎ合えるのではと信じています。また、未来を担う子どもたちにこの事実とそして教訓として未来への人間の希望のメッセージを発信してもらいたいと願いを込めて・・・

この作品を英語版や多国版にして世界で上映し世界の人達と共有し、同じ感情や理性の上に立ちこの企画を推進して行きたいと思っております。

黒潮物語・元気な子の会 代表・小林一平
〒201-0012 東京都狛江市中和泉1-22-25
サン・グレイジュコマエ605号

E-mail; kobayashi@kurosio-bottle.org
Ippei Kobayashi
Kuroshiomonogatari Genkinakonokai
1-22-25-605 akaizumi, Komae City, Tokyo JAPAN
201-0012

<http://www.kurosio-bottle.org/index.html>

海外のニュース

上海ユダヤ人難民博物館:中国上海

上海ユダヤ人難民博物館は、第二次世界大戦中ユダヤ人の難民が大虐殺から逃れ保護を求めていた時代を記念して建設された。ユダヤ人難民が宗教的活動のために集まった元ユダヤ教会堂に、その博物館

がある。1927年に建設されたユダヤ教会堂は、ユダヤ人青年組織の本部でもあった。1937年から1941年の間上海は2万5000人のユダヤ人を受け入れ、ユダヤ人を拒否しない世界で唯一の大都市となった。上海が受け入れたユダヤ人の数は、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、インド、南アフリカが受け入れた数の合計と同じくらいであった。そのユダヤ人協会の周りで、ユダヤ人は自由で平和的な生活を送った。上海での生活は大変思い出に残っているので、ユダヤ人は上海を第二の故郷と考えるほどであった。

1986年、以前上海で難民として暮らしたユダヤ人の団体が上海を訪問した。当時援助をした上海の人々へ深い感謝の気持ちを込めて記念銘板を贈った。そこには「第二次世界大戦中上海で2万人のユダヤ人難民が生き延びた。すべての生存者と友好的な中国人にこの記念銘板を捧げる」と書かれていた。元ユダヤ人協会が上海ユダヤ人難民博物館になって以来、多くの著名人が訪問している。1993年10月14日にはラビン元イスラエル首相が訪問し、訪問者のノートに次のような言葉を記した。「ユダヤ人がナチスに殺され追われて世界をさまよっていた時、上海の人々によって保護された。イスラエル政府、ユダヤ人そして私は心の底から彼らの援助を感謝します。」

なおウェブサイトは次の通りである。

開館時間～09:00-17:00

<http://www.travelchinaguide.com/attraction/shanghai/jewish-refugees-museum.htm>

ジョン・ラーベ記念館:中国の上海市

ドイツ人のジョン・ラーベ(John Rabe:1882～1950)は、人道主義的なビジネスマンであった。彼は時々「中国のオスカー・シンドラ」と言われている。彼は1908年ジーマス社の社員として中国へ行き、南京に住んだ。そこで彼は多くの中国人を雇い中国人から大変尊敬するようになった。それは彼が後にナチス黨員になっても変わらなかった。1937年日本が中国を侵略すると、日本人でさえ彼に安全のために南京を離れるように忠告した。しかし彼は長年に渡り中国人に友人として関わっていると行ってそれを拒否した。1937年11月22日ラーベは中国人の難民を保護し食料を供給するために、南京国際安全地帯を組織した。その後彼は会社で雇用している人々にできるだけたくさん食料を備蓄するようにさせ、ヒトラーに援助を求めることさえしたが、彼から返事はなかった。1937年12月13日に日本が南京を侵略すると、六週間に渡って20万人もの中国人の命を救うために奔走した。彼はしばしば個人的に日本人兵士による残虐行為を止めさせるために調停し、また国際安全地帯に侵入してくる兵士に抵抗さえした。日本人兵士はラーベのナチスの腕章を恐れていた。彼は中国人が普通の生活を送れるように、安全地帯で生まれた子どもの両親にはお金のお祝いを渡した。そこで生まれた子どもの多くが「ジョン」や「ドーラ」(ジョンの妻の名前)と名付けられた。ジョンは1938年2月28日に南京を離れてドイツに帰国し、1945年までジーマス社で働き続け、中国で起こっていることを人々に知らせようとした。彼はロシアとイギリスに逮捕されたが、悪いことをしていないので釈放された。彼の晩年の生活は貧しく、中国政府によって送られる寄付金で生活を送った。彼の戦時中の行為は、1997年アイリス・チャンの「南京の強姦」(The Rape of Nanking)という本に書かれている。

インドの平和博物館活動:インド

8月6日から9日までナグプルにある平和博物館(No More Hiroshima: No more Nagasaki: Peace Museum)

で大学生のために核兵器とその影響について講演会をしました。また映画「ボンベイの爆撃」も上映しました。その後学生は、平和博物館にある展示を見て回りました。
Balkrishna Kurvey
No More Hiroshima: No More Nagasaki: Peace Museum

展示「アンリ・デュナンとグスタヴ・モイニエル」:スイス

国際赤十字赤新月博物館では、「アンリ・デュナンとグスタヴ・モイニエル:友人と敵」(An exhibition by the Association Henry Dunant + Gustave Moynier: 1910-2010)という展示を2010年9月22日から2011年1月23日まで開催する。この二人は国際赤十字社の創立で重要な役割を果たし、同じ年に亡くなった。デュナンは国際的に有名だが、彼の存在と行動は皆に知られていない。従って彼を思い出すことが必要である。他方モイニエルはデュナンほどの名声はなかったが、赤十字国際委員会の会長として40年以上重要な役割を果たした。理想主義的なデュナンと現実的なモイニエルは対立することが多く、生涯和解することはなかった。

Musee international de la Croix-Rouge et du Croissant-Rouge
17, av. de la Paix
CH-1202 Geneve
www.micr.org
Tel +41 22 748 95 11
Fax +41 22 748 95 28

報道された新聞から

テヘラン 2010年6月19日

国際“平和の使者”展覧会 Niabaran Center 2010年・6月29日～7月2日

6月29日はSardashtのガス攻撃の記念日であり、また、化学兵器禁止を呼びかけるイラン国家の日でもあります。それを記憶し、将来の戦争を防ぐために化学兵器被害者支援団(SCWVS)・復員軍人・戦争被害者組織、及びテヘラン平和博物館は展示会「平和の使者」を計画しました。我々は誰もがこの計画の恵みを受けることを信じています。我々は特に、オープニングセレモニーに参加することによって平和運動を支援するメディアや地方自治体や国際的な組織を勇気づけられると思います。広島・ベトナム・ハラジャ・第一次大戦時の最初のガス攻撃を受けたベルギーの代表団は他の国際的なゲストとともに化学と核兵器の、健康と環境への影響についての彼らの写真・ポスター・アート作品を展示するでしょう。詳細は公的国際関係・化学兵器被害者団体の理事であるShahriar・Khateri にご連絡ください。
Shahriar.Khateri@gmail.com または0912 389 0468まで。

このイベントの主な目的は

- * 戦争に対する意識の喚起と平和についての文化の促進
- * 大量破壊兵器の極限の恐怖の展示
- * 平和と正義を支援するためのWMD被害者の国際的ネットワークの創設

開催4日間を越えて化学兵器攻撃の生存者、イラン・ハラジャ・ベトナムからの復員兵、広島原爆の生存者は目撃したことを証言します。オープニングセレモニーは6月29日(火)午後5時～7時 Niavaran 公園に面したPasdaran 通り、Farhagsara(www.nacfiran.com)において開催されます。一般の人々への展示は7月2日(金)午前9時～午後5時までずっと開かれています。我々は喜んであなたをオープニングセレモニーに招待し、また、このユニークなイベントにあなたの友達や仲間の人々も招待いたします。我々イラン人と国際平和支援者は勇気を

与えられ、あなたにお会いできることを希望しております。
* Sardashtは1987年イランーイラク戦争のとき、マスタードガスの攻撃を受けた北西イランの国境の町です。

イラク: Halabjah記念碑と平和博物館

我々クルド人は前のイラク革命のとき抑圧下にありました。我々は人権を奪われ、イラクの二流の人種とされていました。また、何度もKuldistanにおいて特にHalabjahのクルド人は大量虐殺や大移動や虐殺に直面しなければなりません。そこで、我々は前のイラク革命で何が起こったか、全世界と我々の次の世代が記憶するべきすべての虐殺を毎年記念しております。上記の理由から我々は毎年我々の街で記念し、残酷な攻撃のすべてを思い出し、こうした虐殺が再び世界のどこにも起こらないようにと願っております。

ハラジャにおける虐殺

- 1 1988年3月16日 Halabjahの化学兵器爆撃
- 2 1988年3月22日 Sewsenan村の化学兵器爆撃
- 3 1988年3月23日 Jafaran とSardian村の化学兵器爆撃
- 4 1988年3月24日 Dewna地方の化学兵器爆撃
- 5 1988年3月18日 Shankhsi 地方の化学兵器爆撃
- 6 1974年4月24日 Qala Dza町の爆撃
- 7 1974年4月26日 Halabjahの町の爆撃
- 8 1988年3月16日 Balisan村の核兵器爆撃
- 9 4月14日 Anfal キャンペーンの記念日に183000人のクルド人が行方不明や生き埋めに
- 10 1988年3月3日 Goptapa村の化学兵器爆撃
- 11 1987年5月13日 Halabjahの人々の蜂起への弾圧によって前のイラク革命までにこの町の70人が拘束、生き埋め

上記すべての日付にKuldistan内外の多くの人々は毎回我々に何が起こったかを知らせ、世界中のすべての国々と人々に平和を呼びかけています。

Halabjah記念館と平和博物館館長より

オンラインの旅をガイドするアンネ・フランクの家

アムステルダムがナチによって占領された時代のアンネ・フランクの隠れ家と彼女の日記がある博物館は秘密の部屋の架空のオンラインの旅を提供しています。
<http://www.annefrank.org/>

2010年4月28日 英国標準時午後11時:公表10
電信(イギリス)

アンネ・フランクの有名な最初の日記がアンネ・フランクの家の写真の中にあります。
ロイター通信:2年間、アンネ・フランクとその家族、他のユダヤ人たちはアムステルダムの運河沿いの家の後ろにある狭い部屋に隠れました。

アンネ・フランクは1945年ベルゲン・ベルゼン収容所で亡くなりましたが、ナチ占領時代、ドイツ秘密警察から隠れた生活がどんなものだったか、その痛切な詳細が記録された日記によって生き続けています。

アンネ・フランク博物館が開かれて50年の今、毎年100万人以上の人々が訪れています。博物館は架空のオンラインの旅によってアムステルダムのPrisengracht 263番地の後ろの生活がどんなものだったかを提供しています。その旅は毎日、捕らえられる恐怖の下で8人の人々が生きたベッド掛けのプリント、狭苦しい小さな台所を詳細な図によって壁に映し出しています。密告によって捕らえられたアンネと姉、両親と他の人々は1944年8月までこの家に住んでいたのです。

アンネの父オットー・フランクはただ一人の生存者であり、娘の日記を彼女の死後に出版しました。

今年初め、アンネ家族を助けた人々の最後の生存者

ミーブ・ギイズが100歳で亡くなりました。
<http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/7646314/Anne-Frank-house-in-guided-online-tour.html>

イタリア:ミラノ平和博物館

この愛情ある招待からお分りのように我々はミラノ・P recotto地域にある中学校で4月17日に展覧会と大会を開催しました。残念ながらPietro Caruli とPiera Carame llinoはさまざまな先約があつて出席できませんでしたが。

3つのテーブルに我々は書籍・ポスター・先に展示されたものや日本大会のもの、さらにはロシア囚人であった私の父や他の人々に関するオリジナルの記録やメダル、地図、写真なども展示しました。

我々の大会は中学校の母親、生徒、先生の努力からスタートしました。Tarcisio Rosa神父のあいさつ後、私は過去12年間の先の委員会によってなされた活動、我々の新しい組織の基礎について話し、さらに平和教育が推進する目的、ミラノ平和博物館が将来、実現する構想、また、テーブル上の展示物について話しました。

Carla Bianchiは「平和」ということばについての興味深い余談、そこから引き出されたすべての関わり、例えば、同意・自由・協調について話しました。

Emanuele Carlo Ostuniは平和と記念日について二つの詩を朗読しました。

Ester MenasceはRhodes島で1万7千人のイタリア兵士のうちの15人の死についての調査と自分の本について話し、また、彼女の姉妹のノラによって第二次大戦時に書かれた興味深い詩と歌にも言及しました。

これは我々の大会の短い要約ですが、我々はこの組織への入会を続けて呼びかけます。

よろしく ティーナより

Memorial Museum of victims of political persecutions (政治的迫害被害者記念博物館): モンゴル、ウランバートル

当博物館の設立者は、P・ゲンデン首相のご息女G・ツェレントラム博士で、最初の責任者でもありました。1922~1960年代の一方独裁政権下、何千人もの被害者が出た政治的迫害・謀殺の歴史を伝えています。

当博物館は、1937年モスクワでKGBに処刑されたP・ゲンデン首相が1930~36年に過ごした家に、1993年10月6日モンゴル政府の決議により設立され、1996年9月10日の政治的迫害者の日に公開されました。

当博物館の使命は、モンゴル国民にこの無類の悲劇を伝え、犠牲者を追悼し、国民の義務の道徳的意味を来場者に考えてもらうことです。何千人もの無実の人々が政治犯として逮捕され、母国や国民への反逆の汚名を着せられて、共産党独裁政権によって暗殺されたのです。これは人権侵害に他なりません。

連絡先: BEKHBAT Sodnom, Director of the Memorial Museum of Victims of Political persecutions

Tel: (976) 70110915

Email: info@memorialmuseum.info

<http://memorialmuseum.info/>

ペギー・パッテン・シンガーの作品: 米国、ミシガン州

「L=FJE (6)」

別名: 「Love is Freedom, Justice, and Equality Maximized - version 6 (愛は究極の自由、正義、そして平等)」

インキング紙にペンとインク

9×7インチ

c 2009

P. Patten

「L=FJE(6)」は、米国の倫理学者マーク・S・シンガー

の「愛は究極の自由、正義、そして平等」というコンセプトを表現するために制作されました。「Seminal Ethics (生産的倫理)」と題された彼の作品の哲学思想を具体化したもので、2009年~10年の学会や平和研究会での発表に使用されています。その様子は一万通に及ぶE-mailで伝えられ、58カ国から600を超える熱心な回答がありました。

平凡な象徴やわかりにくい表現ではなく、このコンセプトの意味合いを伝える簡潔なイメージを制作することが目標です。文字でデザインした理由は、この素晴らしいコンセプトにふさわしい最も純粋な芸術形式だからです。

レイティング、形、色、配置それぞれが全体と絡み合い、その関係性と各構成部の特徴といった重要な側面を示しています。色彩の質が表現の重要な視覚要素なので、最初の作品「L=FJE(1)」の色をデジタル補正したものが「L=FJE (6)」です。赤レンガ色の浮かび出た金色の線は、下塗りが透けて見える金の葉を表現しています。これは、昔の挿絵付き写本の技術に基づいていて、コンセプトの普遍的テーマを強調し、近代的嗜好のみに収まらないようにしています。

私のデザイン手法により、効果的で簡潔なデザインを通して倫理表現のテーマが人々の心に印象付けられると同時に、この作品を「Seminal Ethics」の完璧なシリーズとさせているのです。



「マーティン・ルーサー・キングJr.の肖像」

11×14インチ

グワッシュ画法; イラストボードにペンとインク

c 1995

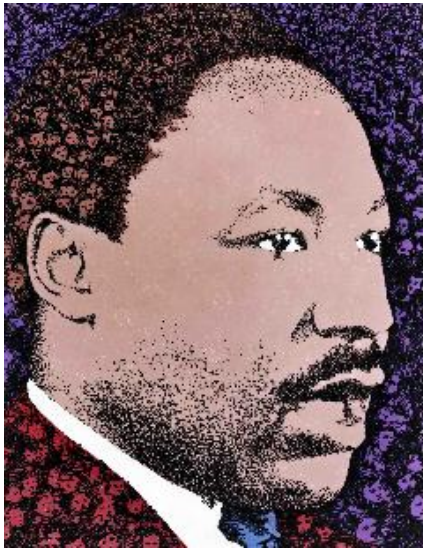
P. Patten

「マーティン・ルーサー・キングJr.の肖像」は、偶像的人物と世界史に残る特別な1日を描いています。アフリカ系アメリカ人公民権運動のリーダーとして1963年のスピーチ「I Have a Dream」で彼がうたった忘れがたい平和と希望のメッセージは、いつの時代も希望の導き手となっています。

私のイラストは、レイヤリングという技術で制作しています。第1層はイラストボード上にスポンジによるグアッシュ画法、第2層はアセテート上にペンとインクでラインを引いています。

レイヤリングによって、彼の顔と彼のスピーチを聞いている群集の高揚感という二つの要素が、彼の肖像画の中で融合しているのが見られるでしょう。この作品のレイヤリングのように、あの特別な日が人々の心とキング博士の精神を結びつけているのです。

彼のメッセージが人々から切り離せないのと同じく、群集の顔も肖像画からは切り離せないのです。



ロシアの教科書に載っている平和博物館

いいニュースがモスクワから入りました。9年生の英語の最も有名なロシアの高校教科書『英語を楽しもう』が平和博物館についての1ページを載せました。平和博物館に関する紹介だけでなくサマルカンドの平和連帯国際博物館についての詳細もいくつか載せています。そのページのタイトルは我々の国際的な企画「世界の微笑み」に関係する「今こそ微笑もう」というものです。ただこの教科書を読むだけでなくそれを分析し、後ろの質問に答えるようになっています。

『英語をたのしもう』はロシア連盟の教育科学省によって推薦された教科書の公的連盟

リストにあり、ロシアのあらゆるところの一般的な教育機関で広く使われています。

著者はMerem Biboletova, Elena Babushis, Olga Clark, Alevtina Morozova, Inna Solovovaです。

平和と喜びを Anatoly Ionesov

サマルカンドの平和博物館展示

平和連帯国際博物館であるサマルカンド博物館の新しい展示は平和の国際日を祝って2009年9月19日に開催されました。Jeremy Gillyによる「平和後の日」の上映は「平和の一日を支援するために」と関係していますが、両展示はメディアに取り上げられました。

また、博物館展示はテーマをもつ部屋「世界と地球規模の試み」「広島・長崎」「記憶の声と希望」「環境と健康的な生活」「美の意志が世界を救う」「エスペラントが平和に貢献する」「子供たちの国際的芸術ギャラリー」「世界の微笑み」などフルスクリーンでさまざまな展示写真をご覧になれます。

<http://cmd.shutterstock.com/commands/pictures/slideshow?site=samarkandpeacemuseum&page=samarkandpeacemuseum/pictures&album=5>

または、小さなサイズでは

<http://samarkandpeacemuseum.shutterstock.com/picture>

Anatoly Ionesov ウズベキスタン サマルカンドの平和と連帯の国際博物館

ウプサラ平和博物館 スウェーデン

開館時間: 水曜日午後2時～6時 土・日曜日12時～午後4時 入場無料

博物館について

ウプサラ平和博物館はスウェーデンにおける最初の

博物館です。2005年12月に開館し、それから1万人の入館者を迎えました。我々の博物館は平和の博物館であることに誇りを持っています。平和と戦争の事件に焦点を当てる多くの博物館は平和よりむしろ戦争に焦点を当てていますが、この博物館では平和および地球規模で平和を達成する方法の重要性を明確に信じております。

この博物館はウプサラ城のなかにあり、国連最初の事務総長ダグ・ハマーショルドを記念しております。彼は幼いころこの城に住んでいました。1961年ザンビアの飛行機事故で亡くなりましたが、彼の国際平和と協調の精神は今も生き続けております。ジョン・F・ケネディはハマーショルドを「我々の世紀の最も偉大な政治家」と呼びましたし、死後にノーベル賞を与えられた唯一の人でした。

2009年 スウェーデンは平和200年記念を祝いました。それは画期的に長い平和期間であり、展示のテーマの一つは憂慮すべき国家から平和な国家へどのように歩んだかです。世界ではこれほど長い平和期間を経験した国は少ないでしょう。なぜスウェーデンがこれほど長い間平和を維持できたか、そして、もしスウェーデンの平和な歴史から何かを学ぶことができるなら、いつ世界的な規模の平和を創造できるかという質問を提起できると思います。他の展示のテーマはハマーショルドの人生、世界中の平和維持へのスウェーデンの参入、平和・戦争・民主主義の概念の一般的な紹介などです。加えて、この平和博物館はマハトマ・ガンジー、アンネ・フランク、第二次大戦時のロマの人々への迫害、南アフリカの持続可能な発展、次の紛争社会における平和維持と再統合などの話題に幅広く焦点を当てながらその時、その時の多くの事柄も長年展示してきました。

しかしながら、この博物館は一つの博物館で終わるようなものではありません。我々はウプサラの学校や近隣市に我々の博物館へ来る機会を与え、人権、人種主義、差別、偏見、道徳的勇気、紛争解決なども学ばせます。さらに、我々は外へ出かけ、学校の生徒とロールプレイングのゲーム、例えば、もし、あなたが大統領なら、国家規模の力を減じさせるにはどうすればいいか、持続可能な発展をどのように創造するかなど国を動かす方法についてのゲームもあります。これらの活動によって若い人々に彼らが信じるものをいかに実現するか、彼らの世代が直面している問題に気付かせ、大小を問わず紛争を平和的に解決する方法を考えさせることが我々の希望なのです。

開館以来、この博物館のスタッフはウプサラや近く何千という子どもたちに会いました。我々は平和構築、紛争解決、日常生活の中で偏見や差別や人種主義とどのように闘うかを教えることによって彼らのなかに何か違うものを創りだすことができたと考えています。

Fredsmuseum/Uppsala slott, Slottet ing H 752 37

Uppsala—Telefon: 018-50 00 08

Info@fredsmuseum.se

未来図平和博物館: アメリカ博物館の未来図

未来図博物館はアメリカ・ペンシルベニア・フィラデルフィアの発展の下に置かれた施設ではなく、2013年に開かれる予定の完全に独立した博物館です。どんな政府・政治・法人・宗教団体にも加盟しません。この博物館は

- ・勇気づける建物
- ・支援するセンターであり、道具箱
- ・変化のための運動 です。

目に見える平和の創造

未来図博物館は文化の場であり、旅行者のための場所であり、加えて新鮮な新しい声を聞く場としてフィラデルフィア中心部に建てられた刺激のある新しい建物とし

てありたいと思っています。社会の最高の業績のいくつかを行う建物群に位置することによって、未来図博物館は力強く長続きする象徴となり、「もう一つの世界は可能である」と多くの人が言うでしょう。

戦略的到達点

* 平和を構築する人々の新しい場所

未来図博物館は力強い世界的なネットワークを育成します。: 未来図平和の場 ニュースレター「平和を未来しよう」をほしい方は名前を書いてください。

* 主な博物館建築

大きな希望をもつ博物館を計画し、造るためには膨大な財源が必要です。未来図博物館の仕事を寄付で支援してください。

* ダイナミックな来館者の経験

未来図博物館はどんな年齢・背景の人々にも力強く興味深い経験ができるよう働きます。

* オンライン「バーチャル博物館」

未来図博物館は世界的インターネットを通して着想や実際のな道具も分け合います。あなたの考えを分け合うためにこの博物館に連絡してください。

* 持続的な発展

未来図博物館は変化する要求に対して進化し、受容する力強い施設です。あなたの考えを分け合うためにこの博物館に連絡してください。未来図博物館は世界中の紛争に苦しむ人々、暴力の連鎖を打ち破りたい人々を助け、本当に「もう一つの世界は可能だ」ということを力強く証明したいと願っています。

歴史

未来図博物館は2007年連邦規則の下で免税組織として法人となりました。その管理は支援する委員会: 理事平和研究・博物館発展などの報告とともに理事が行っております。

この博物館は相談役と組織された助言者を持ち、平和研究における顧問の指導者委員会、博物館計画・指導による支援のために非暴力で行動しております。
Envision Peace Museum: P.O.Box 58067 philadelphia, PA 19102

mailto:info@envisionpeacemuseum.org

http://www.envisionpeacemuseum.index.html

創造的遺産フォーラム:Ctoatia

素晴らしさと革新に関する会議:The Best in Heritage conference

Dubrovnik, 24 2010 年9月24日

これは、それ自体すばらしい計画であり、他のプロが知っているべき賢い行動や思いつきを与えるプログラムです。最高の新しいことを達成するために高度なプロ意識を育成することは将来重要になるでしょう。

この8年間成功したことは世界中からの最高の行動を提供する1年間のイベントで「素晴らしさ」を提示することです。

最高のものを創ったり取り入れたりすることについても他の人が知っているなら、もっと意味が出てくるのです。アイデアや行動はほとんど著作権で保護できませんので、あなたの著作業を守る唯一の方法は、できるだけ広く人々に知らせることなのです。

一度あなたの提案が受け入れられたら、我々は次のことを提供します。

- 1 事務的な招待
- 2 我々の前会議および、よく知られたウェブサイトの発表要約を出版します。
- 3 例えば、全員出席の会議でそれを5分間口頭発表します。
- 4 あとでレセプションのある会議で興味ある専門家とともに議論する機会があります。

5 あなたの口頭発表のすべてはDVDに収録され、よければオンラインのウェブサイトにも広く載せられます。

6 あなたの提案は展示会や個人的に

Exponatec/Kolnmesse in 2011のHeritage Excellence Clubで 発表する機会があります。

7 会議のロビーのポスターの形であなたの提案、行動、アイデアを発表する機会もあります。

このフォーラムは2010年9月24日「Marin Drzic」シアターで開催されます。このイベントのオルガナイザーはI COM UNESCOなどです。

もし、あなたがこの計画に参加したいならば、あなたのお名前、Eメールアドレス、所属、地位を入れて150~200字の要約を2009年 The Best in Heritageまでお送りください。

要約はEメールでお願いいたします。

Ms.Zeljka Miklosevic on chf@thebestinheritage.com

最終提出日: 2010年5月15日

このイベントの詳細はwww.TheBestinHeritage.com

平和博物館: 英国ブラッドフォード

ニュースレター 第10回 2010年3月

移動展示の新作

平和博物館では新たに3つの移動展示を始めました。最新のものは、無料冊子付きの「A Nonviolent Response to Terrorism?(テロには非暴力で対応?)」で、ブラッドフォード大学平和学部のパール・ロジャー教授によるものです。これは昨今、大変意味のあるテーマで、展示会というだけでなく討論の場をも提供しています。2つ目は、紀元前700年から西暦2100年までの「Peace Timeline (平和の記録)」。3つ目は、リーズのTogether for Peace の協力で新しく開催された「Leeds Peace History (リーズ 平和の歴史)」です。これら素晴らしい展示は全て貸出可能です。平和博物館にて、冊子「Leeds Peace Trail (リーズ平和の軌跡)」も入手できます。

平和博物館ホームページ

ホームページを新しく全面改訂しました。

(www.peacemuseum.org.uk)。ロゴや様々な写真も新しくし、教育資料も揃っています。関連サイトへのリンクも追加しました。ぜひご覧になって、コメントを下さい。セキュリティ付きで寄付ができます。

移動展示(全8展示、さらに1展示が追加予定)

移動展示各8展示が国内外で全て予約済みとなりました。「Hiroshima & Nagasaki (広島と長崎) 展」は、Bombier Command (爆撃機指令) 展とともにヨーク市エルヴィントンのヨークシャー航空博物館で開催され、数万人の来場がありました。お問い合わせは電話、メール、ホームページで。貸出は無料です(及び送料保険料)。小学生用と中高生用の資料があります(展示とは別でも可)。8展示は以下の通りです。

• *Women Peacemakers*, past & present (女性平和運動家、過去と現在)

• *Champions of Peace*, on Nobel Peace Prize winners (優れた平和活動家たち、ノーベル賞受賞者)

• *A Vision Shared*, on a 20th century peace perspective (分かち合うビジョン、20世紀の平和観)

• *Such a Journey*, on Bradford's peoples (旅路、ブラッドフォードの人々)

• *Hiroshima & Nagasaki* (広島と長崎)

• *Peace History of Leeds* (リーズ 平和の歴史)

• *Peace Timeline 700 BC- 2100 AD* (平和の記録・700 BC- 2100 AD)

• *A Nonviolent Response to Terrorism?* (テロには非暴力で対応?)

9つ目の展示「*Peace and Conflict in Yorkshire* (ヨークシャーの平和と紛争)」は、2010年4月から貸出します。

1. 私達の所蔵品は、平和のための大きな財産となっています。

タリア・キャンベルさんが収集した素晴らしい旗50枚を引き継ぐことになりました。これらには、グリーンナムコモンを含む重要な歴史的意義が含まれています。20世紀平和運動旗の多くが、現在、私達の手元にあります。また、ノーベル平和賞受賞者3名に関する品をも受け継いでいます。

・グアテマラのリゴベルタ・トゥム女史寄贈の色鮮やかな「社会向上」シャツ

・イランのシーリーン・エバーディ女史寄贈の「Peace Between Nations (国家間の平和)」と題した絵画

・サー・ジョセフ・ロトブラット教授寄贈の所持品

そのほか、アビンドン・ピース・グループ寄贈のオノ・ヨーコの「イマジ・ピース」バッジ、1959～60年のオルダーマストン平和行進のビデオ・DVD、書籍や写真などがあります。タライア・キャンベル、ロン・マローネなど音声記録も収集しています(HPでオーディオ・クリップが見られます)。今後、より多くの平和活動家のインタビューを計画しています。

平和博物館コレクション

平和博物館の平和教育

1. 社会運動教育

英国図書館主宰の全国的な「*Campaign! Make an Impact*」(影響を与える社会運動を！)プログラムに参加しています。地元の学校とともに、生徒達に歴史的な社会運動(50年代から現在までの反核運動)の成果を伝えます。生徒達に活動の方法を学ばせ、自身の運動を計画する機会を与えます。

2. ファミリー学習フェスティバル

10月下旬の全国ファミリー学習フェスティバル期間中、ブラッドフォードでの行事の一環として、12歳以下の子供とその保護者を対象に平和芸術学習を開催しました。参加12人は博物館の所蔵ポスターなどで様々な方法で表現された平和を体験した後、バッジやランチョンマットなどの平和作品を作りました。全員がこの制作を楽しみ、もっと作っていいかと尋ねた方も大勢いました。大変刺激を受けたある母親は、自分のスケッチに「平和でなければ人生ではない」と書かれました。

3. 平和芸術に没頭する生徒達

ブラッドフォード・アカデミーの生徒達が、20世紀の紛争を調べる課題の一貫として博物館を訪れ、所蔵ポスターのスライド見学等を行いました。

2. 訃報 エルノラ・ファーガソン女史

平和博物館の会長エルノラ・ファーガソン女史が他界されました。彼女の献身により、この15年間、当博物館は維持発展してきました。彼女と亡夫の多大な功績に心より感謝いたします。現会長は前副会長クリーブ・バレット氏です。

平和博物館の来場者

昨年の来場は、地元や英国各地のみならず、米国、パキスタン、オーストラリア、ポーランドからもありました。次は、あなたの番です。

平和博物館の今後

リーズ・メトロポリタン大学での常設専用平和博物館の計画が、2009年初めの金融危機の犠牲となったことは前回のニュースレターで報告しました。しかし現在のところ、ブラッドフォード大学、及び平和学部と積極的に交渉中です。両者とも大変前向きで、既に学内に予定地があります。この博物館は、独立した公益信託として、移動の教育展示を持つ公開博物館であり続ける予定です。

所有権と所蔵物の管理権は、現在同様The Peace Museum Trust and Company にあり、収蔵品と展示の長期にわたる安全性と独立性は確保されます。

ニュースレターの配信

ニュースレターのEメール受信をご希望の方は、住所、氏名、メールアドレスを以下に送信下さい。peacemuseum@bradford.gov.uk

あなたの寄付に感謝します

たくさんの寄付をありがとうございます。皆様の寄付は、移動展示の制作等に役立てます。

国際平和博物館会議(日本)

京都、広島で開催された第6回平和博物館国際会議にて大役を果たしました。ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン理事が、この国際ネットワークのコーディネータでもあります。世界各国から約150名が出席しました。

3. 英国納税者の方は寄付にGift Aid(簡易献金)制度を利用してください。もしくは、平和博物館宛でも結構です。いつもありがとうございます。2000年4月6日からのGift Aid政策で、税の還付が可能になりました。英国の個人納税者として寄付をする場合は、下記を記入してご返信下さい(いかなる譲渡をも約束するものではなく、提出は一度限りです)。1ポンドの寄付毎に28ペンスが、平和博物館に給付されます。

I, (full name) of (address) I declare that all donations I have made since 6th April 2000 or make hereafter are to be treated as Gift Aid donations until cancelled by me in writing. I understand that I must pay UK income tax or capital gains tax at least equal to the amount that The Peace Museum will reclaim on my donations.

((住所)(氏名)私は、2000年4月6日以降、書面による私の取り消しがあるまで、私が行った全ての寄付がGift Aidとして扱われるよう申告します。私の寄付に対して平和博物館の申請した金額の少なくとも同額までの英国の所得税、資本利得税の義務について、私は理解しています。)

サイン:

日付:

送付先: Manchester Road, Bradford, BD1 5RW UK

平和博物館事務所、Jacob's Wellまでお送り下さい。

(以前提出された方は不要です。ご不明の場合は、当館会計係の確認のためご記入下さい。)

平和博物館・ビューイング・ギャラリー: 10 Piece Hall Yard (前面ガラス張りのWaterstonesの向かい)

ブラッドフォード・シティセンター、BD1 1PJ (水～金曜、午前11時～午後3時、予約制)

電話: +44 1274 780241 (開館時間内のみ)

平和博物館宛先: Jacobs Well, Manchester Road, Bradford BD1 5RW

電話: +44 1274 434009、Eメール: peacemuseum@bradford.gov.uk

www.peacemuseum.org.uk

平和関連の品々が埋もれていませんか?

もう使われていない平和関連のものが、屋根裏や物置などにありませんか? ブラッドフォード平和博物館では、貸出や寄付を募っています。旗や書籍、写真、ポスター、はがき、出来事の話、平和を象徴するもの、芸術品(絵画、詩、音楽、劇)等です。場所や年代、形は問いません。ご連絡下さい。

ユニテリアン平和旗

オルダーマストン平和行進、1959年

平和博物館は、登録会社(No. 3297915)、及び登録慈善団体(No. 1061102v)です。

歴史芸術会議 “NO MORE WAR” 報告

(開催日: 2009年12月19日 場所: アンドルフアト通り1、ミラノ 主催: 平和博物館委員会)

午前10時、レオーネ・デボン図書館のホールは歴史的重要人物の追悼式典に出席する大勢の人で賑わい

ました。

タルチジオ・ロータ神父が議長を務める中、平和博物館委員会は同委員会の目的と歴史を述べ、続いてバレンチナ・ルッソ氏が1944年10月20日のゴーラ地区・プレコット学校空爆で生き残った人々の体験談を朗読し、俳優アルド・コロネッロ氏とエマニュエル・カルロ・オストゥーニ氏が見事に演じました。

ピエラ・カラムリノ氏は過去10年間の委員会活動を報告し、設立当初「ゴーラの小さな殉教者(Piccoli Martiri di Gorla)」としての活動と「平和博物館」へと名称変更後のより広い範囲にわたる活動を紹介しました。ティナ・レバティ氏は2008年10月日本で開催された第6回国際平和博物館会議の報告を行いました。カラムリノ氏、レバティ氏共に、世界平和実現のためには市民と博物館が協力し学校教育をはじめ対話と結束力のある社会文化を醸成することが重要であると述べました。

また、10年間委員会を主催してきたサレジオ協会ドン・ヴァルター・フィリッポ神父(ゴーラ学校虐殺の生存児童4名の内の1人)およびゴーラ学校虐殺でプレコット学校の児童をいち早く救った英雄ドン・カルロ・ポッロ神父の追悼を行い、記念碑「平和の人」にその名を刻みました。

キリスト教勲章(Christian Partisans Medal Flag)贈呈の後、委員会代表はマッシーモ・オールダーニ氏と共に委員会会則の改定理由を述べ、マルツァボット虐殺、フォッソーリ虐殺、ロシア軍事作戦、また最近のテロ行為ピアザ・フォンターナ虐殺など、イタリア国内で起きた他の虐殺事件に対しても追悼を行うなど委員会の活動目的を拡大するためであると説明しました。

カルロ・ビアンキ氏の追悼がご令嬢カルラさんより執り行われました。カトリック学生連盟の主要人物であったビアンキ氏は、ファシズム政権下でカリタス・アンブロジーナ(Caritas Ambrosiana)を設立、また反体制紙『Rebellious』を刊行し、1944年7月12日フォッソーリ強制収容所チベノ射撃場で射殺された67人のうちの1人でした。この追悼式は参加者に深い感動を与え、オストゥーニ氏によって演じられた作品『The Rebellious Prayer』をビアンキ氏と共に書き上げたテレジオ・オリベリ氏を追悼する機会となりました。

歴史研究家であり『ミラノ・カトリック学生によるイタリア社会共和国反対運動の側面(Aspects of the Milan Catholic Students' to Repubblica Sociale Italiana)』の著者であるカルラ・ビアンキ氏はタルチジオ・ロータ神父との対談において、恐ろしいフォッソーリ虐殺だけでなくファシズム政権下のミラノにはびこる悪夢のような雰囲気の中、人々の生存を成し遂げられたことを述べました。

ロシアのジュリア・アルバイン部隊の従軍司祭であったブレビ神父の著書が紹介されました。この著書はデホニアン図書館に所蔵されており、歴史を学ぶ学生は自由に利用可能です。また同図書館では、虐殺の生存者や戦争犠牲者の遺族との面会を企画しており、過去10年間ではゴーラ・プレコット虐殺の生存者との面会が実現しました。トラジジオ神父は、ファシズム体制への抵抗期に命を失った殉教者ドン・エリア・コミニ氏やニコラ・カペリ神父にも触れ、彼らに対する「列福式」が後日執り行われることを伝えました。

ミラノのキリスト教中道民主連合(UDC)党首であるエンリコ・マルコーラ博士は、殺害されたアルド・モーロ氏と自らの祖母に対する追悼を行いました。祖母はゴーラ虐殺で殺害された187人の子供たちを納めた小さな白い棺を埋葬する葬儀に参列した事実を彼に伝えたのです。(当時まだ学生のマルコーラ氏にとっては衝撃でした。)マルコーラ氏は、ミラノにイタリア平和博物館を創設するという我々の計画に賛同しました。同じくアルベルト・マッティオーリ前ミラノ州副知事やカルマイン・アバグナーレ氏からも支持を得ました。アバグナーレ氏はミラノ市議

会議員およびスポーツ・余暇委員長であり、ミラノ市長レティツィア・モラッティ氏から我々の創設計画に対する賛辞の言葉をとりつけた人物であります。

2006年5月13日のカルロ・アゼリオ・チャンピ共和党大統領の任期満了に伴う退任を機に設立された基金ケファロニア殉教者(Cefalonia Martyrs)の法務代表は、ケファロニアの惨劇に触れ平和博物館への協力を誓いました。

コンゴの宣教師ネイロ・ブロッカドロ(Neiro Broccadoro)神父は少年兵士の現状を伝え、会議の参加者は皆世界平和へ向けた活動の必要性を再認識しました。

ヘクター・ビラヌーバ氏は、OCCAM(the Observatory for Cultural and Audiovisual Communication 1997年ユネスコにより設立)のイタリア代表ですが、彼が1989年にイタリアの正規移民となるまでの険しい道のりを熱く語り、人種、文化、宗教による差別の撤廃に取り組む必要性を訴えました。これは平和博物館の活動主旨のひとつでもあります。

ミラノのディオニジ・テッタマンツィ大司教に宛てたイタリア平和博物館への祈禱を懇願する書簡に会議の参加者全員が署名を行いました。

最後に、我々イタリア平和博物館では、決定的かつ意義ある飛躍をとげる準備が整いました。最適な立地を得ることで、過去11年間の準備期間を経てイタリアで屈指の平和博物館になることができると信じております。

我々は学校や社会における教育活動の発展と、国内外におけるネットワークの構築により、会議名“NO MORE WAR”の言葉通り、個人と集団における恒久平和を築く時であると宣言します。

イタリア平和博物館(MUSEO ITALIANO PER LA PACE)

2010年3月17日ミラノにおける会議報告

以下の出資協力者が出席

タルチジオ・ロータ神父、ピエトロ・カルツリ、ピエラとジャンカルロ・カラムリノ、エマヌエーレ・カルロ・オストゥーニ、ティナ・フェリチタ・レヴァーティ、ジョスエ・ブランビッラ

過去12年間の委員会の活動概要およびこれまでの委員会の参加した国際会議の内容に関する書籍および報道資料を展示、公開中。

この会合は代議士、他団体メンバー、大学教授および学校指導者、また我々の活動に賛同する個人が参加する。

主要参加者

サヴィーノ・ペッツォッタ議員、ロンバルディア州キリスト教中道民主連合党首候補

ロベルト・ビスカルディニ博士、前上院(元老院)議員

ヴァレンティノ・バッソ氏、州議会議員

マッシーモ・オルダーニ氏、ミラノ県キリスト教パルチザン協会代表

ミラノ県また他の町村より支持者の方々

ピエトロ・カルリ代表あいさつ後、主旨説明。ディオニジ・テッタマンツィミラノ枢機卿から2009年クリスマスに直筆の書状により我々の構想を奨励。

サヴィーノ・ペッツォッタ議員

平和社会の礎を築くため、また倫理的、道徳的、宗教的価値観ある市民社会育成のため、みな教育問題に取り組む必要があるとの意見を発表。これらが人類の尊厳と良心を形作るものであるが、明らかに近年こういった価値観は失われてきており、それゆえ我々自身で前向きに変わって行く努力をしなければならない。

ピエラ・カラムリノ氏

ピコリ・マルティリ・ゴ-ラ委員会による過去12年間の全活動および、イタリア平和博物館協会新設の目的に関する情報を紹介。

ピエトロ・カルツリ氏

基本定款要約。重要事項の説明および条項第2項、非政治・非宗教・非営利団体であることを読み上げた。

理事会メンバー発表

ピエトロ・カルツリ 法定代理人、会長

理事:

ピエラ・ナネッティ、ジャンフランコ・カラメッリーノ、ティナ・フェリチタ・レヴァーティ、エマニュエーレ・カルロ・オストゥーニ

活動予定発表

- a) 平和ミュージアムの候補地決定に係る活動
- b) 特集企画や目標実現へ向けての研究および認知のための委員会創設
 1. 学校教育
 2. 歴史調査および資料整理
 3. イベント・会議の開催
 4. 広報代理業務
 5. 総務事務

参加者に協力要請

ティナ・レヴァーティ氏からMuseo Italiano per la Pace Association創設のお知らせを平和のための博物館国際ネットワーク(INMP)(ピーター・ヴァン・デン・ダンゲン氏)および日本代表(山根和代氏)に送付。

関連した手続きによる通常会員の入会を受付けています。

会長

書記

ピエトロ・カルツリ

ティナ・F・レヴァーティ

平和歴史博物館ニュース:ヒンデラング、ドイツ

2009年閉館したバート・ヒンデラング(アルゴ)のFriedenshistorisches Museum(平和歴史博物館)が2009年9月1日より、Friedenshistorisches Archiv(平和歴史保存庫)となった。

以来、一部展示品を再公開している。2010年7月15日より、以前の博物館展示品の中からセクションとして「20世紀の戦争と平和」という小規模の常設展示が行なわれている、これは現在、バイエルン地方ドナウ沿岸のCastle at Schloss Hoechstädt(ホーヘシュタット城)(アウクスブルクやウルムなど歴史都市の近く)における常設展示「ブレンハイムの戦い」の一部となっている。

ホーヘシュタットは1704年スペイン継承戦争の一環としてこの地で起こった大きな戦いのため有名になった。この戦いでヨーロッパの覇権争いの中、フランスは守勢に回り、英国の台頭の始まりとなった。

近代の戦争と平和について考察する新たな展示セクションが中世後期の城を所有するAdministration of public Castles, Gardens, and Lakes(バイエルン国有城塞庭園湖水管理局)の協力により設置される予定。その城にはMuseum of German Fayence(ドイツファイエンス博物館)があり、コンサートや他の文化イベントが催される。

住所は以下のとおり

Schloss Hoechstädt an der Donau

Herzogin Anna Strasse 52

D-89420 Hoechstädt/Donau

Germany

www.schloss-hoechstädt.de

ジンバブエのアーティスト、マタベレランド展の後、保釈される

ロバート・ムガベは敵対しているジンバブエのアーティスト、オーウェン・マセコを治安部隊を使って迫害したことで告発された、マセコは逮捕後保釈された

マセコ氏はムガベ大統領に忠誠を誓う軍が行なったマタベレランド虐殺をテーマに、ブラワーヨで展覧会を行っていた。

BBC南アフリカ特派員カレン・アレンによると、氏はブラワーヨのナショナルギャラリーで館長とともに逮捕された。

マセコ氏は扇動罪とされており、週末を獄内で過ごした。訴追後2週間以内に裁判所に出頭するよう命じられていた。

人権運動家によると、POSA(公的秩序治安法)はジンバブエで政治的反対意見を封じ込めるのに適用されている。

ムガベ氏の支持者らによる近年の人権侵害を告発する写真展がハラレで警察によって中止された直後にマセコ氏は逮捕された。

ブラワーヨでの展覧会の主題の一つが1980年ジンバブエ独立後、国軍によるマタベレランドでの何万人ものンデベレ人虐殺であった。

虐殺された人々はムガベの政敵ジョシュア・ンコモの支持者であったため訴追されたのだ。

ムガベ氏は最近もう一人の宿敵モーガン・ツヴァンギライと連立政権を担っている。

しかし、ツヴァンギライ氏の支持者によると、彼らはいまだに治安部隊による迫害を受けているということである。(2010年3月30日付BBCニュース)

国際赤十字・赤新月博物館 改装のお知らせ:スイス・ジュネーブ

《「希望の博物館」への転身》

国際赤十字・赤新月博物館(MICR)はこの度の改装につき、常設展示を国際的に有名な3名の設計者に委託します。赤十字社の歴史に焦点を合わせた現在の常設展示は、現代の人道支援状況をテーマ別に展示する各スペースに移動します。改装作業期間は2011年6月より約1年間の見込みです。

ロジャー・メイヨー館長は「人道支援の種類の变化、伝達経路の発達に伴い、当博物館もその現実を反映すべきと考えた」と報道陣に語っています。

新しい常設展示は導入スペースと「人間の尊厳の擁護」「家族の絆の再建」「運命に打ち克つ」の3つのテーマ別スペースで構成されます。

当博物館基金委員会会長リュック・ハフナー率いる国際審査員団により、9名の候補者の中から3名の設計者が選出されました。いずれも「人道主義の挑戦を明示する」という当館の大望に答えうる技量の持ち主です。

リオデジャネイロの「オイ・フツロ」やテレコミュニケーション・ミュージアムの設計で有名なブラジル人建築家、グリンゴ・カルディアは、「人間の尊厳の擁護」スペースを担当します。

アフリカでの耐久性のある現代建築の支援で有名な、ブルキナファソ出身のフランシス・ケレは、「家族の絆の再建」を表現する生気あふれる感動的な空間を生み出します。

日本建築の天才空想家、坂茂は、ニューヨーク近代美術館での《紙のアーチ》プロジェクトやポンピドー・センター・メッツに見られるように建築に詩を吹き込む手法で有名ですが、「運命に打ち克つ」をテーマにしたスペースを担当します。

リュック・ハフナー会長は、「当館のプロジェクトに国を異にする高名な建築家の興味を引きつけることができ嬉しく思う。この多様性を望んでいた。現在、3名の建築

家のアイデアとコンセプトを吟味中だが、当館の今後の成功を保証する魅力的なプロジェクトになることは間違いない」と語っています。当館の希望に添い、設計は、現代美術作品を取り入れたものになります。

スイス、レ・ヌーヴヴィルの建築家グループ「アトリエ・オイ」が3建築家の作品のまとめ役を務めます。「建築界の大物と仕事ができる絶好の機会」と、建築家のひとり、パトリック・レイモンドは興奮気味に話しています。アトリエ・オイは他にも、期間限定展示や時事問題を扱うスペースのデザインを手掛けます。

改装は2011年6月に着工、現在の常設展示は着工日まで公開されます。

設計者コメント: グリンゴ・カルディア

今回の常設展示は、赤十字社と赤新月社の活動に習い、社会における人々の行動を変えようとするものです。実話の数々を芸術で彩った、広々とした空間を訪れた鑑賞者は、人生における重要な瞬間を体験することでしょう。

フランシス・ケレ

歴史を通して、起源への回帰と自然への愛着は人類の変わらぬ願望でした。今日でもそれは同じで、環境との調和は持続可能な未来に繋がります。今回の展示では、鑑賞者それぞれの知覚に訴え巻き込むことで、このテーマの様々な側面を表現したいと思います。

坂茂

自然素材を用いた色を感じる温かい空間により、赤十字社の重要な使命である予防活動に寄せられる期待と重要性を表現します。鑑賞者は円卓を囲んで予防活動に関するロールプレイを行うことができますが、感受性に訴える体験となるでしょう。

今後の予定

2010年10月 遠近図法によるコンセプトのプレゼンテーション

2011年4月 遠近図法によるコンセプトの詳細受け渡し

2011年6月 約一年にわたり博物館閉館

住所: Musee international de la Croix-Rouge et du Croissant-Rouge (国際赤十字・赤新月博物館)

17, av. de la Paix

1202 Geneve

www.micr.org

Tel. +41 22 748 95 01

Fax. +41 22 748 95 28

10時～17時(火曜閉館)

売店・レストラン有

コルナヴァン駅より8番バス(OMSまたはアッピア行き)

アッピア下車

身体障害者対応

平和のための彫刻

ジェーン・バンジ・ノフク(アメリカ人彫刻家)

私の作品は、日常生活において一般の人々が直面する問題に取り組むもので、文化や行政に左右されない普遍的な真実を探索しています。戦禍を描く作品もその一部です。

今、米国も世界も危機的状況にあります。その中こそ変化や治癒、また地球の資源を見直し、病気や飢えを防ぐ可能性を強く感じます。平和のために働く私たちは幸運にも、「人類」という家族がお互いに助け合っていないという悲しい事実の解決策を知っています。「自

分たち」と「彼ら」という区別はないのです。私たちはそれを芸術で表現します。芸術はあらゆる境界を超えて、普通なら見ることのできない世界を見せてくれる「共通語」なのです。

彫刻は、アイデアに基づいて制作する場合と、粘土で作業を進めている間にアイデアが固まる場合があります。粘土彫刻では、粘土を取り除いたり加えたり引き算・足し算ができます。粘土の塊からイメージを彫り出すこともあります。一番重要な道具は手で、粘土をねじったり曲げたりして形を作ります。人間の形をいくつか作り、色んなポーズを取らせてアイデアを試します。この作業は立体作家にとっての「下絵」です。ひな型は滅多に使いません。イメージと構造は頭の中にあります。粘土彫刻が完成したら铸造所で鋳型を作り、ブロンズで铸造します。同じ鋳型ですらに8体のブロンズ像を作ることができますが、彫刻一点に3年ほどかかることもあるので、本当に助かります。

1. よろこび

二人目の子が生まれた時に「よろこび」を制作しました。ほかの子を産んだ時と同様にこの子が生まれた奇跡に感謝しました。どう彫刻で表そうか？一番強いイメージは赤ん坊を天に祈るように高く持ち上げるポーズー私は急いで小さい作品を作り上げました。



2. 戦争

時として私は心が壊れてしまう前に制作にかかります。「戦争」の時もそうでした。アメリカがイラクへ侵攻した時、戦争反対を叫んで他国の何百万もの人たちと同様に自分の町で平和デモに参加しました。しかし戦争はじまりました。

戦争の悲痛さを表現するために自らの女、母としての体験から創作していきました。死にかけた子を抱いてアメリカ兵の目を凝視するイラクの母親。一方アフリカ系のアメリカ兵士は、叫びながらヨーロッパ系のアメリカ兵士がくずおれるのを抱き上げ、イラクの母親の目をじっと見る。鑑賞者が両方の作品の間を歩いてそれぞれの視線を体験できるように二つの作品は離れて展示されます。

アメリカ人が共感を持ち、退役兵士たちが各地で展覧会を企画しました。彼らはどんな状況でも人殺しはしたくない、兵士が体験した苦悩をアートにしてくれる作家はいない、とコメントしました。退役兵士らが作品を見せる機会を広げてくれたのです。



3. ソマリア

洪水と飢饉が襲う中、「ソマリア」は作られました。遠い国で数百万人が飢えに苦しむなか、我が家には十分に食べ物がある。私に何ができるのだろうか？悲愴を乗り越えて作品を作れるよう、私は大いなる創造の源に祈りました。本当はソマリアのアーティストが作るべきでは？けれども彼らはそれができない、それなら私がすべきだ。そう理解した私は通常数カ月数年かかるような、飢えに苦しむ母子像を10時間で作り上げました。身にまとう布は風になびき、痩せた膝の間に男の子がもたれる。空っぽのバケツをつかんで母はまるで救いが来るのを待つように見つめている。制作しながら私は何かが変化するのを感じました。二人の苦痛を迫体験しているはずが、私は二人の強い愛を感じ取りました。

結び

戦争平和を描くアーティスト達は、MUSEや、デトロイトの「剣を鋤に・平和センター」のような平和ミュージアムの協力で、展覧会をもてることに感謝し、切望しています。作品はレンタルでき、ウェブで見ることができます。ご協力をお願いいたします。
www.jbronze.com



パキスタンの少女の詩

泣く女

サイド・ルマタ・メーディ作
(パキスタン、カラチのAES School for Girls、
ケンブリッジ0-IIの生徒、15歳、
eメールアドレス：rumana.mehdi@yahoo.com)

藁葺き小屋の中、我が人生を呪う
母であり、姉であり、妻であった人生を

胸が張り裂けるほどに泣く女は
人ごみの中でもなお孤独だ

この家父長制社会で、男達に支配された
純粋さも敬虔さも、認められはしなかった

父は彼女の地位を息子より下にみた
家系は彼の名の下で続くのだ

兄弟から敬意を払われたことはない
彼女の将来など考えたこともない

夫の家では、奴隷のように扱われた
大邸宅にも関わらず、暗い洞窟のようだった

ある日、起こるべくして起こった出来事
幸せではなかったその家から、女は追い出された

実家には帰れない
一人で生きる道しか残されてはいない

椰子の葉と木の枝で小屋を建てた
激しい過去の記憶は、いまなお胸を刺す

今や彼女も年老いた
こんな生活のためでさえ、全ての財産を売りはらった

ぼろぼろの寝台で死にゆく女は
全ての人のこれまでの言動を許す

息が途絶えるまで泣き続け
涙が枕を濡らした

そして永遠に静かな眠りについた
笑いの意味も知らずに生きた女

2010年6月6日

出版物

戦後日本の平和教育の社会学的研究
村上登司文 著
定価6,720円(本体6,400円＋税)
2009年

Transitions Volume 5 Issue 1 2010
Earth & Peace Education International (EPE)
97-37 63rd Rd 15e, Rego Park, N.Y. 11374;
718 275 3932 (tel & fax)

info@globalepe.org
www.globalepe.org

核抑止なき安全保障へ
一核戦略にかかわった英国海軍将校の証言
著者:ロバート・グリーン 著
ISBN 978-4-7803-0384-1 C0031
A5判 360頁
2010年 定価(本体価格2,500円+税)

Security Without Nuclear Deterrence
Commander Robert Green, Royal Navy (Ret'd)
'One of the best informed and most searching critiques of the central strategic doctrine of the nuclear age - nuclear deterrence - that I know of.'
Jonathan Schell, author of *The Fate of the Earth*,
Yale University
Publication date: May 2010
ISBN: 987-0-473-16781-3
15cm x 23cm
272 pages illustrated paperback

Peace Philosophy in Action edited by Candice C. Carter and Ravindra Kumar
Published by Palgrave Macmillan: New York (2010/9/28)
(英文で日本の憲法9条などについて山根和代執筆)
Kazuyo Yamane wrote an article of "War Renunciation and Abolishment by Japan".

おことわり

無署名の記事は、編集者の責任でまとめたものですが、署名記事は執筆者の責任で書かれたもので、必ずしも「平和のための博物館・市民ネットワーク」の事務局や編集者の見解を示すものではありません。